

平成29年度

**「小学校英語教科化に向けた専門性
向上のための講習の開発・実施事業」**

成果報告書

平成30年3月

京都教育大学

本事業は、小学校英語教科化に向けて、京都府・京都市の現職小学校教員が専門性を高め、中学校への英語指導との接続を理解するとともに、専科としての英語指導が可能になるよう、知識・技能の向上を図るものであり、具体的な目標は以下のように設定した。

- (1)80%以上の受講者が、3年間で全科目を受講し、中学校教諭2種免許状（外国語（英語））を取得すること。
- (2)中学校英語との接続を意識しながら、コミュニケーションを中心にした英語学習の意義を理解させる指導ができること。
- (3)単に中学校教諭2種免許状（外国語（英語））を取得して中学校での教科指導を知るだけでなく、小学校5・6年次の「英語」においてそれを柔軟に応用し、小学生の発達段階に応じた英語指導につなげられること。
- (4)小学校3・4年次の「外国語活動」に関しても、有益な指導法を身につけて、実際に指導できるようになること。
- (5)講座を通して、英語運用能力を身につけ、自信を持って教室英語が使えるようになること。

それらの目標にも鑑み、本事業2年目の内容と成果等について振り返りたい。

1. 授業科目：「英語学Ⅰ」（実施日：7月2日、7月9日、10月22日、12月10日）

（1）講座内容

本講座の概要は、シラバスの記載どおり、英語学（言語学）の基礎的な概念を理解し、英語学的な思考法の基礎の習得すること、基礎英文法および基礎構文に対する理解を深めることを通して、ことばの不思議さ、ことばについて思索することの面白さ、英文法の有用性を教授することであった。

講義では、英語学の主要なテーマを毎回取り上げ、教育文法の視点からも分析と考察を加えた。たとえば、時制に関わる諸問題（特に現在時制・未来時制）では、Tenseとしての現在時制と時間軸上の現在との違い、動詞の現在形による未来の出来事の表し方など、英語特有の現象を統一的な視点から概観した。また、will/be going to の用法や進行形など、英語学習の入門期に現れる基本的な表現の意味・機能についても、訳語に依存する機械的な暗記学習から脱却し、英語学的な分析による根源的・原理的な理解を促すように努めた。また、統語論（句構造と移動現象）の講義では、語は文中ではすべて句として具現化するという考え方に基づき、構成素の形成と構成素単位での移動が生じ文の変形や派生が起こることを、英語の wh 疑問文を取り上げて講義した。wh 疑問文の形成とその解釈が wh 句の痕跡とどのように相関するかを可視化することで、疑問文の文法性についての理解を深めた。さらに否定現象については、not と no の機能に注目するとともに、表現に内在する主観性の解釈がどのような仕組みによって説明できるかについて考察した。否定語の機能についての根本的な理解に繋がることを目論むとともに、やや高度な内容であるが、否定・比較構文の考え方をイメージ図式通して解説し、英語の論理、英語の発想との関連づけに注力した。

最後に、講義全体を通して、ことばの解釈は文脈を切り離しては存在しえないものであり、場面や状況を踏まえた英語理解・英語指導の重要性を強調した。認知言語学の作業仮説のひとつでもある「場面の記号化に関する仮説」の観点から、話者の出来事の捉え方が構文選択あるいは構文形成に一定の動機づけを与えていることを示すとともに、形式と意味の対応関係としての文法の有用性を実感してもらえるように努めた。

（2）成果

受講生自らが、英語を単にコミュニケーションのツールとして捉えるのではなく、言語学的な視点から英語を理解することによって、観察対象としての言語表現を分析する術をいくらかでも習得し、英語の構造や意味に対する見方が変わる一助になったのではないかと考える。たとえば、will / be

going to では、機械的に両者を同義と捉えていた受講生も当初多かったが、文脈の与え方次第では一方の表現が不適切と判断されることを自ら考察できるようになった人が多かったことは喜ばしい。また、動作動詞/状態動詞などの動詞の下位分類、動詞の自他、選択制限など、英語を使用する際に有用となる基礎的な着眼点を学習したことで、日英対照言語学的な視座がいくらか構築されたと考える。文全体の骨格的意味は、一般的に、動詞の意味情報が最大投射されることによって形成されたと考えられているが、英語と日本語を比較すると、動詞の意味は互いに一対一対応するものばかりでないことに気づくであろう。動詞の使用については英語に固有のルールがあることを学習したことで、受講生の一人ひとりが、今後の英語学習・英語指導において、何らかの「考えるヒント」を発見してくれたのではないと思われる。次年度開講の「英語学 II」では、本年度の講義内容を踏まえ、英語発達史と現代英語の諸相という観点から現代英文法について理解することを目指すとともに、英語学の知見を英語教育へ還元するための方法についても考究していきたい。

(3) 改善点など

受講生が多いこともあり、一人ひとりに英語を使用してもらう時間が十分に取れなかったことは否めない。また、受講生が小学校の先生方であるため、英語学という研究方略を基礎から丁寧に講義することに努めたことで、アウトプットの機会が十分ではなかった。毎回グループワークやペアワークなどの協働学習を適宜取り入れ、授業の活性化を図ったが、学習内容の定着と一層の学習効果を期待するうえでも、アウトプット活動の在り方を今後の課題とし、具体的な対応策を講じていきたい。受講生の問題意識の旺盛さという点では個人差が顕著に見られた。英語学という授業科目の性質上、今後もある程度は基礎・基本を大切に丁寧に講義することには変わりはないが、発展的な課題に取り組む意欲ある受講生には、別途、学習課題を提供するなどして、可能な限り個別の指導を行うように努めたい。

(4) 担当者のコメント

同一科目で1日6時間という過酷な授業を年4回に亘って実施したが、受講生は大変熱心に授業に参加してくれた。英語学をはじめて学習する人が大半であったせいも、授業終了後も熱心に質問に来た受講生が少なからずいた。授業内容については、概ね理解してもらえたようであるが、学習内容の定着を図るためにも、継続的に学習してもらうことが何よりも大切であると言える。また、実際に英語を使用する機会があれば、部分的にでも活用してもらいたいものである。

アンケート結果を見ると、小学校での明日の英語指導に役立つ、即効性のある知見をもっと学びたい旨、要望が一部寄せられていた。透徹した論理に裏打ちされた英語学の成果を教育現場に還元する際、活用の仕方によると混乱が生じることも考えられるため、指導者は相当な注意を払う必要があることを付言しておきたい。また、「英語の不思議さ、英語について思索することの面白さ」を認識することの意義を受講生の皆さんがそれぞれのレベルで認知してもらえたようであり、この点については、授業担当者として喜ばしい限りである。最後に、今後も英語学に一層の興味をもってもらい、英語学習および英語指導の背景知識として活用してもらえることを期待したい。

2 授業科目：「英語コミュニケーションⅡ」（実施日：10月29日、12月17日）

(1) 講座内容

英語の4技能を関連して指導するあり方を考える。さらに、近年ヨーロッパで広まっている CLIL (Content and Language Integrated Learning: クリル) という英語教育法の体験を踏まえて、学校現場で理科や社会などの教科学習と英語の語学学習を統合したアプローチを紹介する。内容は理論的

な人間関係における「コミュニケーション」について深く考える本を日本語で読み、英語でその中の部分に焦点を当て、英語でリスニングとリーディングを行った。

(2) 成果

成果の一つ目は、高いレベルの英語を理解し、聞き取りをスラスラ読み聞きが出来るようになった。二つ目は（Content and Language Integrated Learning：クリル）という英語教育法の体験を実際に行った。小学校教員として、他教科との関連を作る意義は感じられたと思われる。3点目は職場と家庭内に置けるコミュニケーションについて、確かな理論のもとに、考え、有意義な話し合いが出来た。

(3) 利点・改善点など

- ・市販の教科書ではなく、担当教員の自作英語教材であったため、印刷と英語の編集に十分な時間が使えた。
- ・読まなければならない英語内容を減らして、もっと受講生同士の話し合いが出来るように工夫するように構成を考えたほうが良いとの意見があった。
- ・日本語の訳本も読む価値はあるが、英語の理解のため、内容を削減し、英語だけでも理解できるように検討する必要がある。

(4) 担当者のコメント

日本語の翻訳があっても、担当者自身はその英語の原本を分かりやすい英語に編集しても、英語の難しさを痛感した受講生は多くいた。

3 授業科目：中等生徒指導、教育相談、進路指導（実施日 11月5日、12日、26日、12月3日）

(1) 講座内容

本講座の到達目標は、1. 生徒指導・教育相談および進路指導の意義とその理論・方法を理解する。2. 中学校・高等学校段階の生徒が学校・家庭・社会の中で遭遇する可能性のある課題について、生徒の状況を適切に把握しながら支援方法を考えることができる。であった。上記の到達目標をふまえて、生徒指導（1日目）、進路指導（2日目）、教育相談（3日目、4日目）の3つの分野ごとに4名の講師が講座を担当した。各分野の内容について以下に示す。

生徒指導分野では、生徒指導の位置付け・意義・目的・方法などについて詳述した。また、生徒指導に関わる法規についても解説した。さらには非行やいじめ、不登校などの生徒指導上の諸課題に関しては、講義に加え受講者間の討議を導入して、受講者の内容への理解の深化をめざした。

進路指導分野は、職業指導→進路指導→キャリア教育への転換とその意義、キャリアガイダンスとキャリアカウンセリングの技法と具体例、高校や大学の入試制度・高等学校卒業程度認定試験、障害のある生徒の進路保障、教科学習や「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育の実践例の紹介を取り上げた。最後に、受講生がペアになり、キャリアカウンセリングの体験実習を行い、講師がコメントをした。

教育相談分野（前半）は、教育相談の基本的な考え方、方法について概説し、その後ペアによる傾聴の実習を行った。また、保護者や地域との連携ということで、家庭訪問の方法や関係機関との連携における留意点等について、理解を深めた。最後に、虐待への対応として、具体の架空事例を提示し、どのように対応するかをグループに分かれて検討し、その指導方針を立ててもらった。

教育相談分野（後半）は、子ども理解のための理論と方法について、アセスメントの視点及び子どもの発達課題に関する講義と体験的ワークを行った。その上で、発達段階に応じた教育相談事例（不登校等）を提示し、小グループでのディスカッションと全体での共有を図った。

(2) 成果

本講座では、中学校における生徒指導、教育相談、進路指導に関する内容に加えて、受講者の大半が小学校教員であることをふまえて、小中連携の意義や実際、児童期から青年期の発達等にも重点を置いた。中学校における生徒指導、教育相談、進路指導に関する理論や方法についての受講者の理解や関心が深まったことが、受講態度、最終試験、アンケート結果より評価できた。受講者は全般的にまじめで熱心な学習態度であり、講座内で行ったグループワークやディスカッションでは、本講座の内容と各自の教職経験を照らし合わせながら、意欲的で活発な意見交換が行われていた。

アンケートでは、「小学校英語を担当する自信がついた」等の直接英語教育と関係のない項目は点数が低めであったが、自由記述において「受講する前は、英語とは直接関係がないので意味がないと思っていたが、講座の中ですぐに使えるような事があり受講してよかったと思った」「教育情報も新しいので職場でも生かすことができる」「中学校教諭だったら…今担任している子達は…という教員の視点で受けていたので役に立つ話はたくさんあった」等の現在の生徒指導、教育相談、進路指導に活用できる意見がみられた。

評価は全体的な受講態度及び最終テストで行った。テストについては、授業で行った内容から、生徒指導、教育相談、進路指導の3つの分野にわたる論述形式の問題を出題した。

(3) 改善点など

受講者の関心領域や学習深度の違いもみられ、限られた講座時間の中で、全体をふまえながら各自のニーズにも応じた講座構成が課題である。特にネット対応についてのニーズが多くみられた。

また、本講座の開講時期が学校の多忙な時期と重なり大変であったとの意見もみられ、開講時期についても検討と早期の周知が必要であると考えられる。

(4) 担当者のコメント

受講者は中学校英語の学びと免許取得を動機として受講している中で、本来の目的である英語とは異なる分野の講座であり、各講座の中でも異色の内容であったが、モチベーションも高く、概ね熱心に講座に参加されていたことはよかったと思う。受講者からは、講義だけでなくグループワークやディスカッション等の体験的な学びの場を求める声や、より具体的かつ実践的な内容を求める声もみられ、教育実践に役立てることのできる講座として位置付けることができればと考える。

教育職員免許法第6条別表8による単位取得の仕方について、正確な理解をしていない受講生がいたことは残念であった。

4 小学校英語スキルアップ講座 Aa、Ba (実施日 9月3日、2月4日)

(1) 講座内容

主に以下の内容について理論と演習を行った。

① これからの小学校英語 (新学習指導要領より)

→新学習指導要領のポイント、育成すべき3つの資質能力、外国語活動と外国語の違い、そのねらいやグローバル時代に求められる小学校英語などについて解説・議論を行った。また、small talk の演習も行った。

② 文科省の新教材とその指導法

→新教材 *Let's Try!* と *We Can!* について、指導目標やポイント、などについて。Ba では、実際の文部科学省のデジタルコンテンツを使いながら、特徴を見たり、活用方法について考えたりした。

③ 短時間学習 (モジュール) ができること一カリキュラム作成と評価

→短時間学習ではフォニックス、歌・チャンツ、絵本の読み聞かせ、ストーリー、コミュニケー

ション活動などが取り扱われているが、具体例と実際に行われている学校の成果と課題などについてビデオを見たり協議を行った。

④文字指導とその様々な指導法（絵本・歌・チャンツなど）

→教科になれば、読むこと、書くことの指導が入ってくる。段階をおった文字指導のあり方を理論と実践の両面から。特に、アルファベットジング、絵本の読み聞かせなどバランスアプローチを踏まえて、音韻認識等の紹介と絵本の読み聞かせなどの演習も行った。

⑤中学年と高学年における評価はどう違うか。パフォーマンス評価とは何か。

→評価とは何か。どのようにすれば児童の自己効力感や有能感、自律が育つのかといった視点や、中学年の外国語活動と高学年の外国語科の評価の違い、Can-Do 評価やパフォーマンス評価の具体例を見ながら実際に児童のパフォーマンスの評価を行った。

(2) 成果

受講者は若い教員も多く、熱心に受講され、講座内容にも満足されていたようである。まずは、新学習指導要領の内容、小学校外国語活動と外国語の違い、新教材、4技能5領域の指導と評価のあり方などについて理解していただいた。また、読み書き指導は大きな課題であり、アルファベットの扱い、音韻認識や絵本の使い方など、講師の優れた具体例を見ながら実際に体験し、また受講者同士で読み聞かせを行ったり、英語で発問や small talk をする等、より実践的な内容を通して次年度からの移行措置期間に備えて、基本的事項を理解していただけたのではないかと、実際に授業に役立てて頂けるのではないかと考える。

さらに、小学校高学年で必要な知的好奇心や有能感、達成感を育てるための知的な活動(CLIL)や、担任ならではの他教科横断的な内容等、教材開発や工夫を豊富な例を示しながら体験していただいたので、イメージがつかめ発想が広がったようである。最後に不安が大きかった評価の問題を取り上げ、指導と評価の重要性、授業改善や児童の自己肯定感につながる評価の在り方について理解していただいたようである。また、具体的に児童のパフォーマンス評価の様子を見ていただいたり、自身で評価してもらうなど視聴や体験を通して、イメージができたのではないかとと思われる。昨年も参加された方もおられたが、今年度は新学習指導要領や新教材が出された後なので、より具体的な教材を用いて講義や演習ができた。また、今年度は京都府北部地区での開催を導入し、夏と冬の2回開催し、より多くの先生方が参加できる環境や体制を整えたのが好評であった。

(3) 改善点など

短時間に伝える内容が多く、なかなか消化するのが難しかったかも知れない。詳細な配付資料を配布しているので、参考にさせていただきたい。また英語力のスキルアップを望まれる声も聞かれたため、次年度はさらに改良したプログラムを検討している。

5 小学校英語スキルアップ講座 Ab、Bb（実施日 8月12日、2月18日）

(1) 講座内容と成果

・第二言語習得から得られる示唆（児童の言語の学びとは）
インプット→インテイク→中間言語の発達→アップテイク→アウトプットという流れについて最新の第二言語習得理論を学んだ。特に、アップテイクの重要性について理解が深まった。

・小学校中学年と高学年、並びに高学年と中学校の接続
前者についてはアイテム学習 (item-learning) とカテゴリー学習 (category-learning)、後者についてはカテゴリー学習 (category-learning) とシステム学習 (system-learning) を学んだ。小学校高学年から始まる概念的思考の重要性について理解し、発達段階を踏まえての概念と発話の拡がりを目指した言語活動を考案できるようになった。

- ・ *Hi, friends!* の例文の高度化（特にリアリティについて）

Hi, friends! の例文を検討し、その問題点を指摘し、リアリティを増すためには具体的にどうすればよいか、考察した。特に、副詞の働きについて理解が深まった。

- ・ 新教材 *Let's try!* と *We Can!* を使って

三人一組のグループを作って、4年次の終わりと6年次の終わりの授業案を考案した。具体的には複数の単元を合成することにより、児童にとって復習になるばかりでなく、談話が豊かになり世界が広がることを確認できた。大変、有意義なワークショップとなった。

- ・ 言語の習得を促進するためのクラスの設計に関わる手順と活動

外国語習得論の基本である学習言語の4つのストランド（意味集束入力、意味集束出力、言語集中学習、流暢開発）に基づいて、実際に大人向けの教材を使い説明した。また、Bbでは、動機、気づき、検索、クリエイティブな言語の使用、保持の観点から言語の習得を外国語学習技術の認知的特徴の観点から *Hi, friends! 2* の文部科学省提供の授業計画の案について検討しながら、教材と活動の中身の認知的特徴を分析した。

- ・ 集中読書と広読読解の違い

インテンシブとエクステンシブ・リーディングについて違いを説明し、実際に体験していただいた。実際に小学校に適したOxford Reading Treeを使ってその違いについて説明した。

- ・ クラスルーム・イングリッシュの演習

教室英語を適用するための重要な原則を説明し、実際に授業で使うキーフレーズを練習した。

（2）成果

ワークショップ形式で行われ、受講生が活発に熱心に英語活動を体験しながら、英語習得のための概念についての説明をより深く理解し、実り多い講座となった。また、実際のクラスルームイングリッシュを練習し、様々な場面での適用を理解されたようである。さらに、Bbでは、英語習得のため認知的特徴の概念についての理解が高まってから学習言語の4つのストランドの説明を行ったが、そちらの方が効果的であったと感じた。

（3）改善点など

Baでは、ワークショップ形式が多く、実際に英語の習得と活用の視点から実施したことで大量の英語を話せて、英語習得の理論を体験的に理解出来たが、実際に小学生に教える立場からこの理論を適応する小学校英語の内容との繋がりをもっと明確にする必要性を感じた。そこで、Bbでは、小学校で実際に使用できるような直接的な具体例をより多く示し、受講生の英語活動を少なくして、*Hi, friends! 2* の教材と活動についての分析をメインにしたが、認知的特徴の観点から *Hi, friends! 2* の分析に関心が集まったようであった。NSの講義では英語と日本語を混ぜて講義を行ったが、日本語に頼る時もあったので、英語で行いたい。

6 全体を通して

2年目を迎え、昨年度の成果と課題を基に、より良い講習・プログラム開発に努めた。今年度も京都府教育委員会指導主事より2名、京都市教育委員会指導主事1名、京都府小学校校長会より1名、京都市小学校校長会より1名が、本事業の検討委員会やプログラム開発委員会に関わってくださり、

貴重なご意見を頂戴し協議が出来たことが大変有り難かった。また、京都府総合教育センター、京都市総合教育センター等のご協力もいただき、各小学校に講座情報をお伝えいただいたり、チラシを配布していただくなど全面的にご支援いただいたことも大きな成果であったと言える。教育委員会と大学の連携があつてこそ、ご要望もお聞きしながら成し得た事業であると考えている。

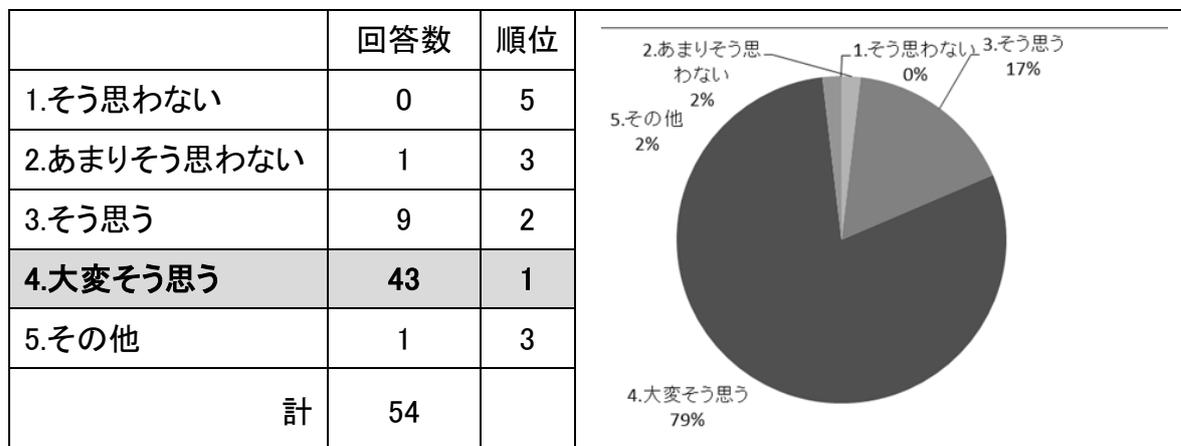
また、今年度も多くの応募者があつたことから、小学校教員の専門的知識や技能の習得や研修等の必要性と、本事業の意義や重要性が確認された。また、アンケート結果からは受講者の満足度は高く、おおむね成功と言えるだろう。と同時に課題もいくつか見えてきた。中学校英語の免許法認定講習では、かなりの英語力が必要とされるが、個人差が非常に大きく、また外国語活動の指導経験年数にも大きな隔たりがあり、講座を進める際に留意すべき点が再認識される結果となった。

さらに今年度は、昨年度の要望を受けて、スキルアップ講座を京都府北部でも夏に開催し、冬の本学での講座と合わせて4回の開催を行った。その結果、おおむね満足を得られたが、やはり継続的な開催を求める声も多く、英語力育成につながる講習を期待される声も多いため、来年度はさらに実践的な講座も開催する予定である。時期については引き続き検討課題である。さらに、内容が少し多すぎるといった感想も聞かれたので、教員の即戦力・実践力育成のために、テーマを次年度は新教材の活用を中心にするなど、特化したものにする我也想たい。

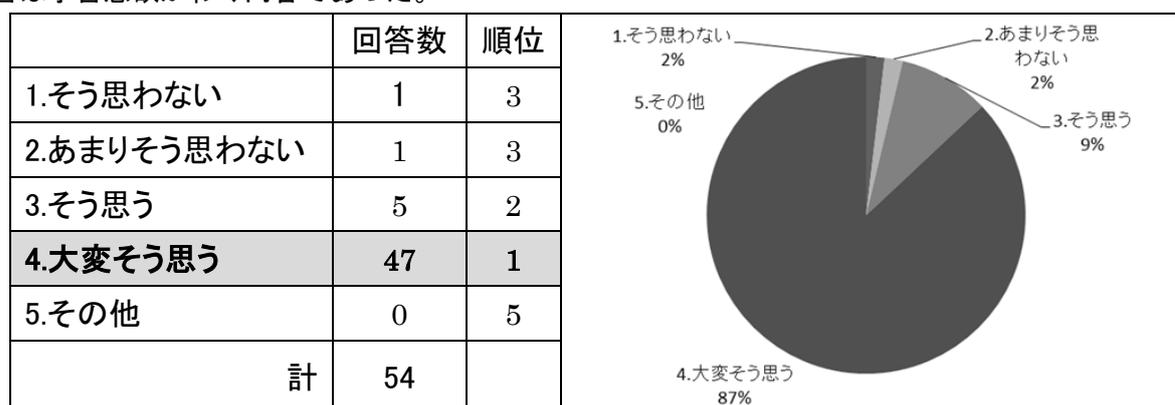
参考資料1 「英語学Ⅰ」受講者アンケート結果

中学校二種（英語）免許法認定講習「英語学Ⅰ」に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	66
	回答者数	54

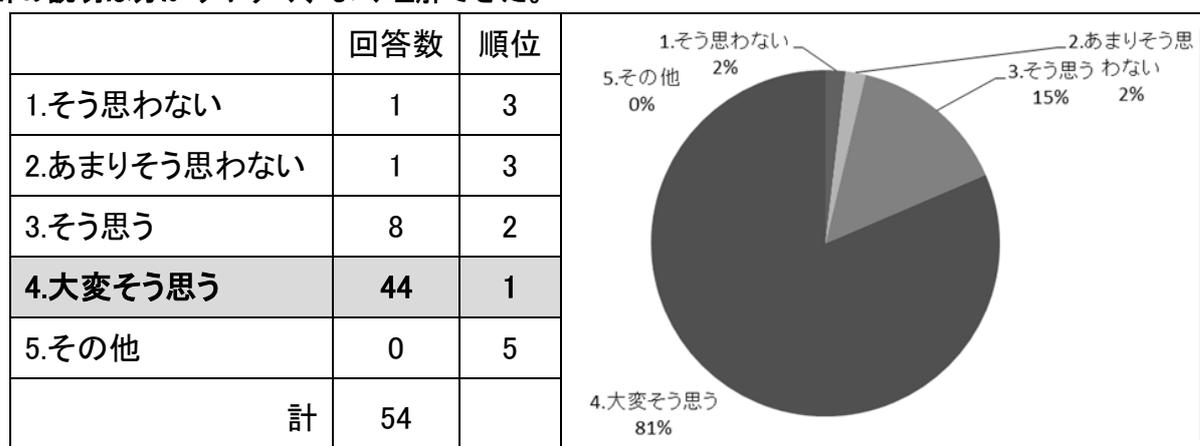
①講習の狙いや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。



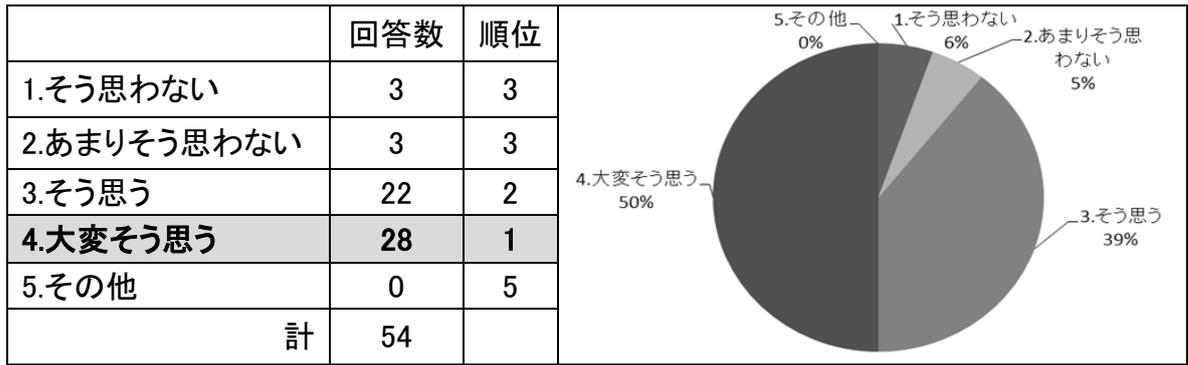
②講習は学習意欲がわく内容であった。



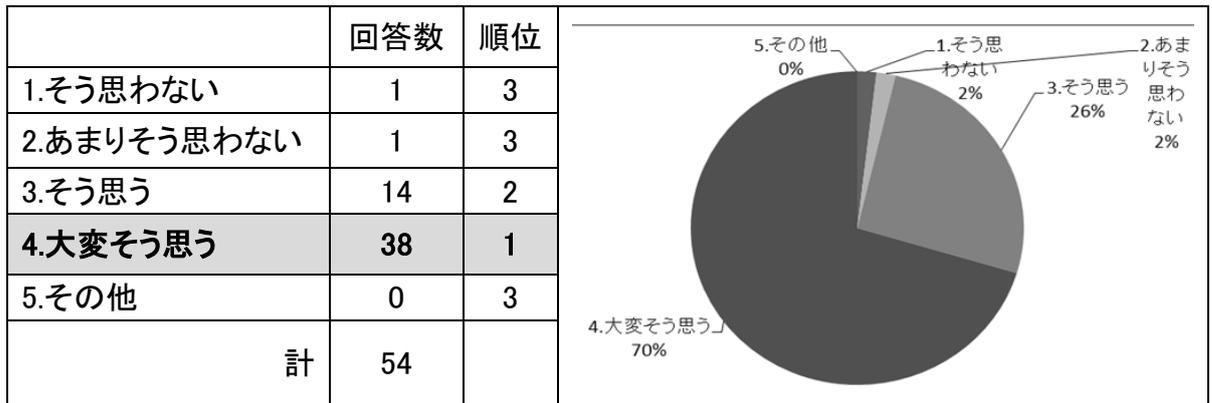
③講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。



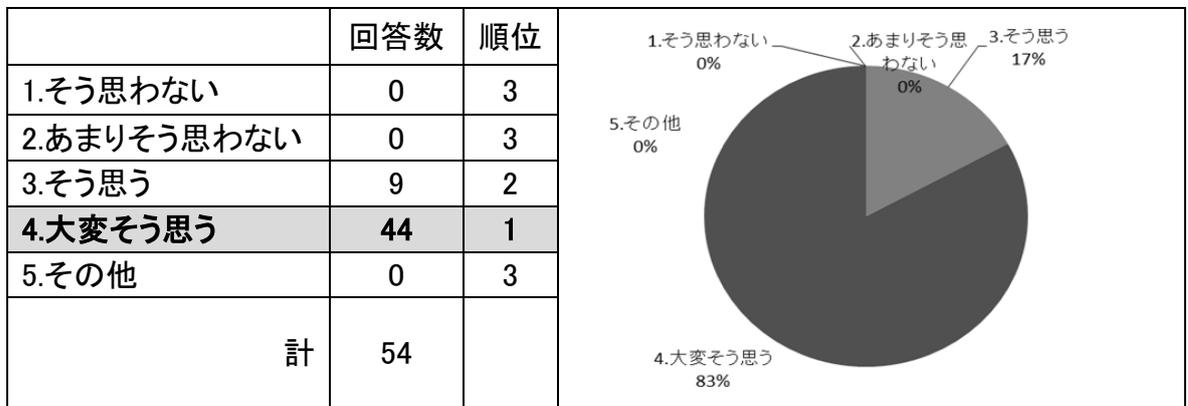
④今後英語を指導する教員に必要かつ適切な内容であった。



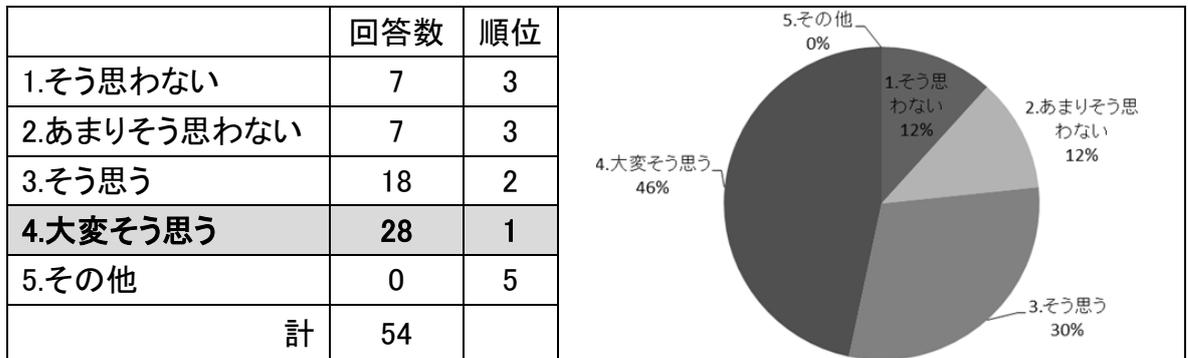
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。



⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。



⑦小学校英語を担当する自信がついた。



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業日程について】

- －昨年と比べて開始時間が遅くなり、私個人は都合が悪かった。9時スタートくらいが良い。
- －台風で1時間減ったのはとても残念でした。

【授業内容・運営について】

○分かりやすかった。

- －とてもわかりやすく、英語という言葉、言語についての理解が深まった。
- －はじめは英文法に対し、苦手意識があり「難しいことをたくさんおぼえなければいけないんだろうな」とかまえていた。講義が始まってみると、とてもわかりやすく心配だったことが、ウソのようになった。

○さらに学びたいと思った。

- －英文法の面白さ、新たに知るうれしさを感じ、もう1回学び直したくなった。
- －小学校で英語を教える中で私自身がさらに英語について深く知っていく必要があると痛感させられた。
- －今までの英語の概念が変化し、より興味をもつことができた。英文法に対する見方が変わる授業であったと思う。
- －今後指導していく立場となる私たちが、英語に興味を持ち引き続き学び続けようと思う内容であった。
- －小学校英語に直接関係のある内容ももっと知りたかった。
- －毎時間の内容で、重複が多く時間がもったいないと感じた。どんどん新しいことを学びたかった。ただ、時間をかけていただいた分深く理解できた。

○面白さを感じた。

- －英語のおもしろさを感じた。個人の学びとしては、英語の授業を受けた中で一番楽しく学べた。
- －昨年度よりこの講座を受講し、京大でも受講していたが、児玉先生の講座が一番楽しくて分かりやすく英語って奥が深くておもしろいと感じることができた。
- －ひとつの文法について、深いところまで知っていくとおもしろいと思った。
- －今回の講座で、文法の大切さ、何より面白さを体感し、また英語という言葉そのものの捉え方としての視点から話をしてくださったことで、言語という記号の集合体に込められた思いや文化について知れ、とても興味深く受講できた。

○新たな知識を得た。

- －目からウロコの授業ばかりで、学校では習わなかったことが勉強できたのでますます英語の奥深さに触れて、良かったです。
- －身近な英単語や表現を取り上げ、今まで「そういうものだ」と思い覚え込んでいた事柄について「なぜそうなっているのか」を教えてくださいましたので、新鮮な気持ちで学ぶことができました。

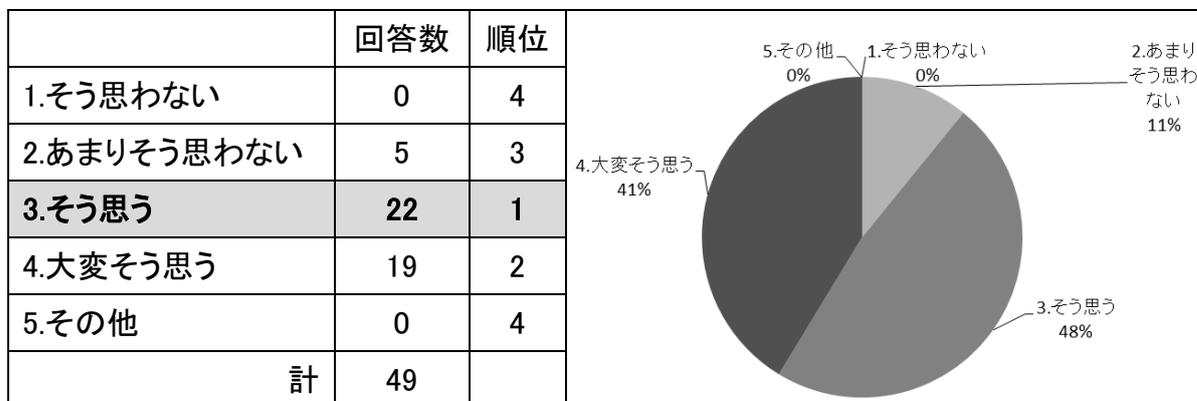
【その他】

- －「分からないことをどんどん聞いてください」という雰囲気があたたかく、学習の場はこうあるべきだと思った。今後も受講したいと思う内容ばかりだった。
- －言語学・文法の楽しさというものについて語っておられたのが印象的で、先生自身が楽しく授業に取り組んでおられる姿を見て、小学校（英語を含む他教科においても）においても先生自身が楽しむことが大切だと感じた。

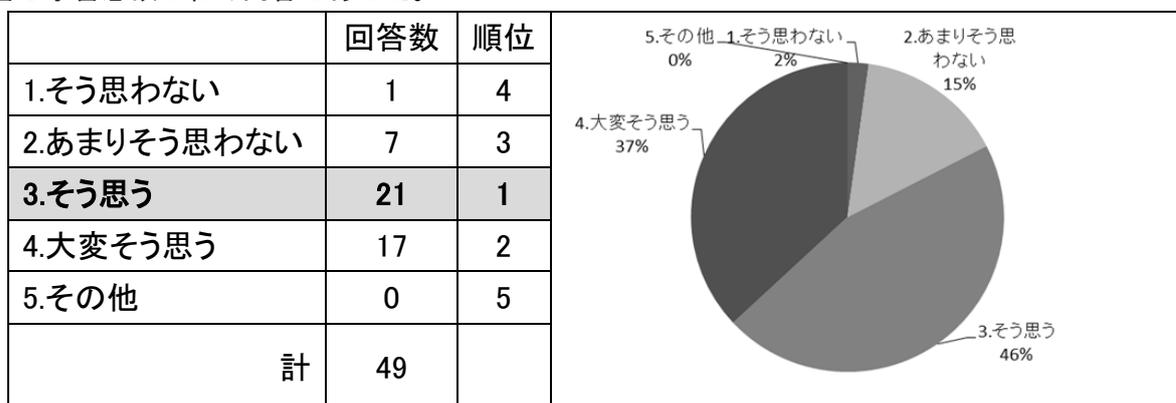
参考資料2 「中等生徒指導他」受講者アンケート結果

中学校二種（英語）免許法認定講習「中等生徒指導他」に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	59
	回答者数	49

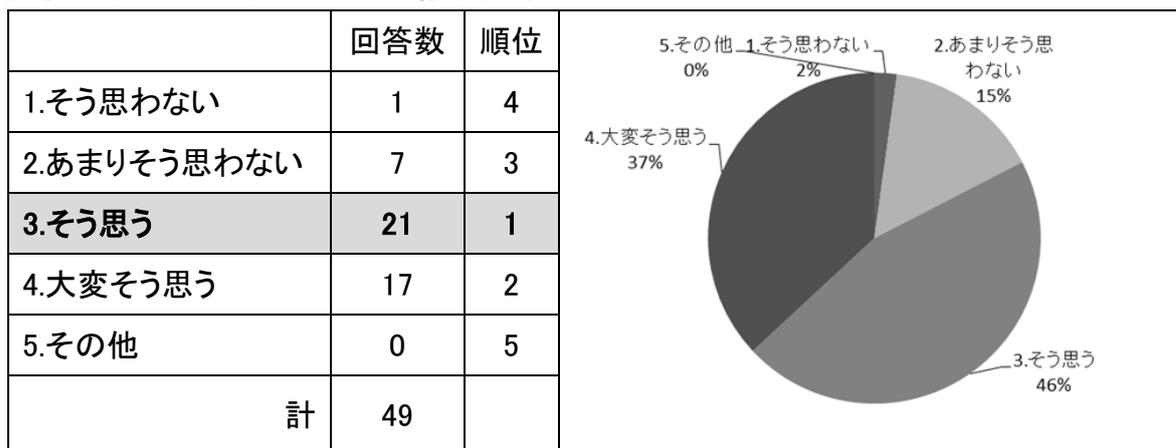
①講習の狙いや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。



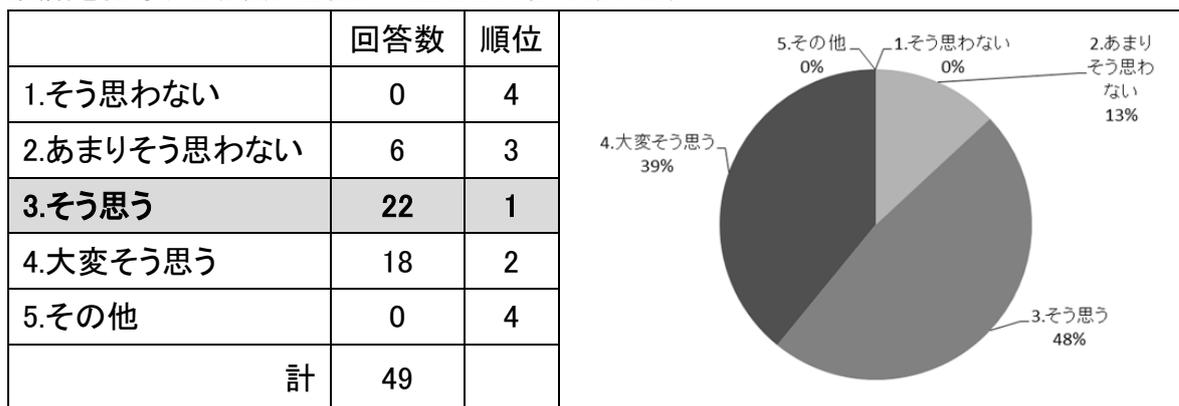
②講習は学習意欲がわく内容であった。



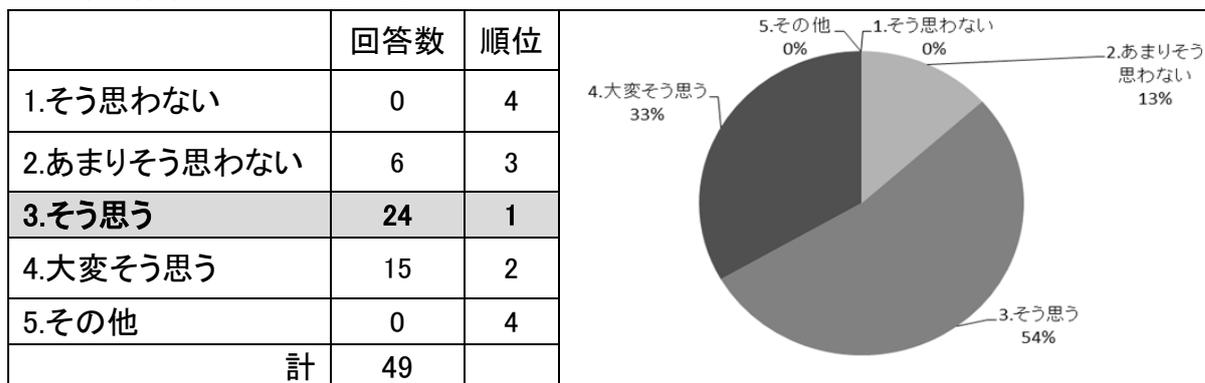
③講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。



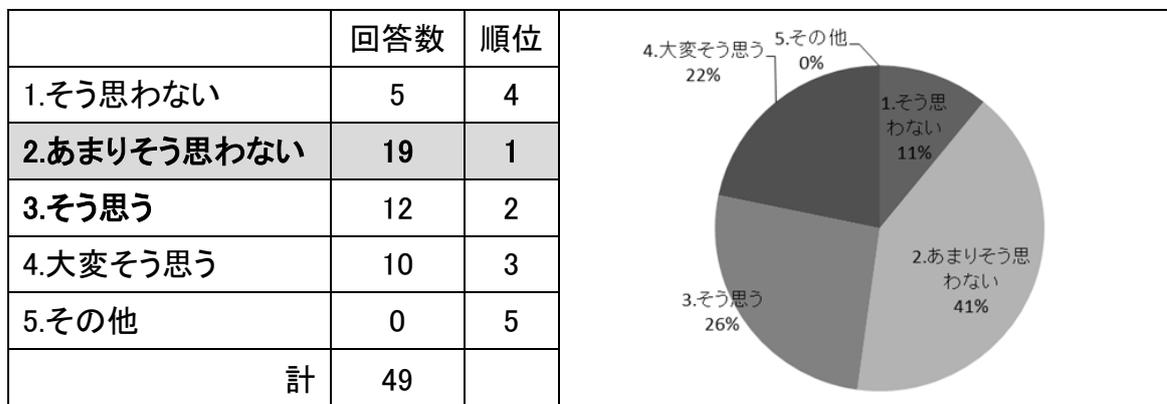
④今後英語を指導する教員に必要なかつ適切な内容であった。



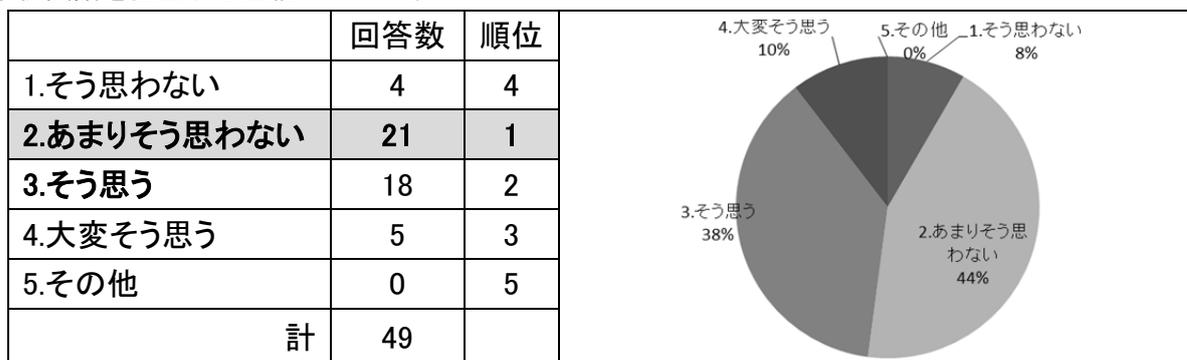
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。



⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。



⑦小学校英語を担当する自信がついた。



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業日程について】

- －中学の免許を持っているが（英語以外）この講習を受けないといけませんと言われ参加したが、この時期、多忙で大変だった。
- －難しいかもしれませんが、12月に毎週授業が詰まっているのは他の先生方とも大変だと話していた。来年度は3年継続して受講している方だと最終の7単位をとることになる。可能であれば、早めにスケジュールを教えてください。
- －基本的に連続した週であったのでよかった。期間が空きすぎると忘れてしまう恐れもあるので。

【授業内容・運営について】

○豊富な事例が参考になった。

- －多くの事例を見ることができ、英語にとどまらず、学校教育活動に生かすことのできる講義をしていただけた。
- －事例をたくさん出してもらったのが分かりやすかった。小学校現場と照らし合わせながら学べた。英語の学習に直接結びつくとは言えないが、学級経営がなりたたないと学習はなりたたないので必要な内容だ。
- －事例をたくさん学ぶことができ受講前より、多面的な見方ができるようになった。

○意見交流がよかった。

- －グループ交流が多くあり、他の先生方の実践やお話がきけてよかった。
- －ワーク形式があり、受講者の方と様々な情報交換できたのがよかった。
- －カウンセリングやグループワークが良かった。

○新しい情報を得た。

- －新しい教育観がきけてよかった。
- －教育情報が新しいので職場でも生かすことができる。
- －学校現場の中だけでは知ることができない難しい科学的なアプローチなどがとても興味深くおもしろかった。

○もう少し深く学びたかった。

- －事例についてどのような対策をするかレポート提出するなど、もっとプログレッシブな内容の方がよかった。ある意味講義をきくだけでは表面的な理解に終わってしまった感が残る。
- －現在小学校に勤務している人ばかりの授業なので、それぞれの問題の定義の説明に時間を使うのではなく、具体例から対応を考えたり、LINE や LGBT など最近の話題を取り上げて欲しかった。テキストが「はじめて学ぶ…」というのも気になった。もっと概論のような内容でなく深い内容の授業を望む。
- －現代社会に合った内容をもっと取り上げて欲しかった。SNS やネット社会で起こりうる内容とそれを受けての動きをもっと知りたかった。
- －新たな教育問題など知らないことも学びたかった。ネットトラブルについても学びたかった。

【その他】

- －講師の先生方皆さんそれぞれのキャラクターが違って、個性を感じた。個性が人を惹きつけるのだと改めて感じた。
- －各先生方が1日という長い講座にもかかわらず誠実に教材を準備して、講義をしていただいた。
- －今、問題になっているネットいじめについてのビデオが視聴できなかったのが残念。講義の前に機械の確認をしておくべきだと思った。（教授が無理なら事務の方）学校現場では、ICT教育が始まりそのあたりはとてもシビアになっている。

— 中学校英語の単位取得ということで今回の講座があったが、英語とは関係ない分野だったので…。
講座そのものはよかった。あくまで小学校教員が中学校教員の免許をとるという講習なので仕方
ないと思いますが、制度自体を見直さないと小学校教員の英語のレベルはあがらないと思う。

参考資料 3 3つの講義を終えたアンケート（講座運営に関して）

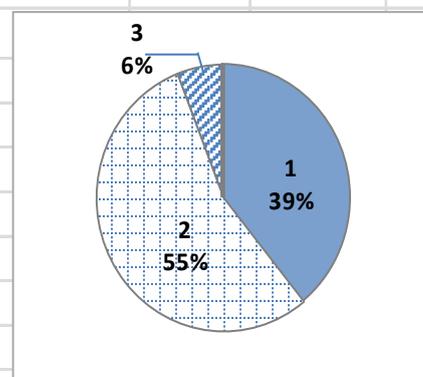
中学校（英語）免許認定講習についてのアンケート 集計結果	受講者数	64
	回答者数	51
	回収率	79.7%

（H29.12.17 実施）

① 講座の運営について

授業日程、受講申請方法、大学からの連絡、講義室、出欠確認方法などは、
適切だったと思われますか。

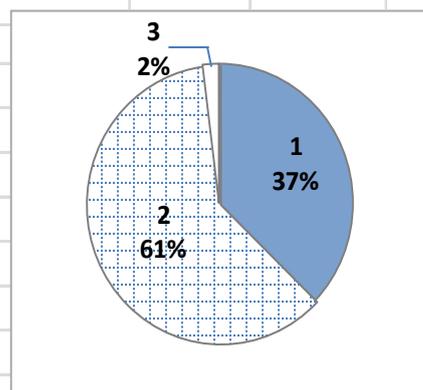
	回答数	順位
1. とても適切であった	20	2
2. ある程度適切であった	28	1
3. あまり適切でなかった	3	3
4. 適切でなかった	0	—
5. 無回答	0	—
計	51	—



② 講座全体について

本講座全体を通じての評価をお聞かせください。

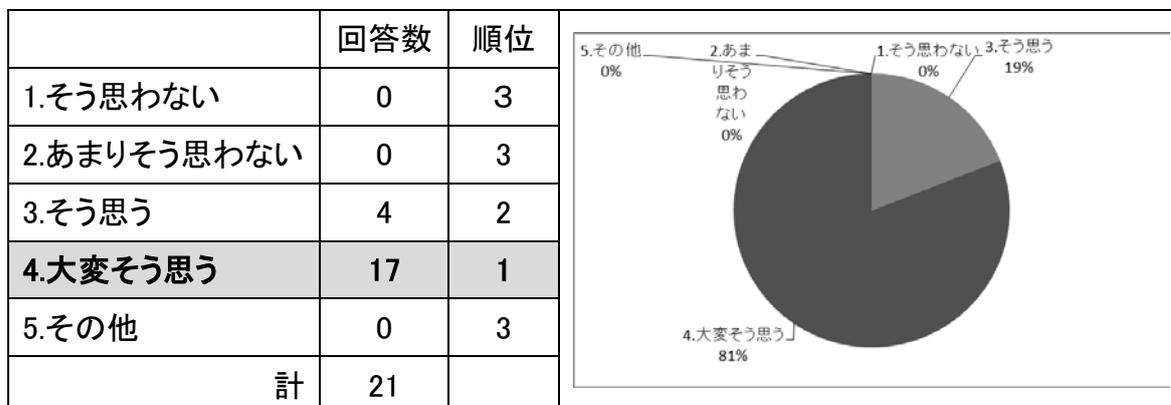
	回答数	順位
1. とても満足した	19	2
2. ある程度満足した	31	1
3. あまり満足していない	1	3
4. 不満である	0	—
5. 無回答	0	—
計	51	—



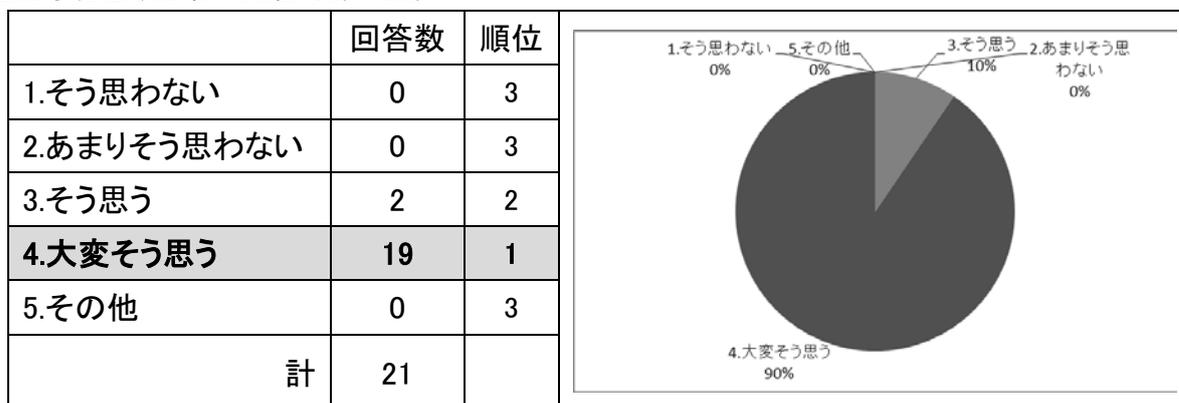
参考資料4 「小学校英語スキルアップ講座 Aa」受講者アンケート結果

小学校英語スキルアップ講座 Aa に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	22
	回答者数	21

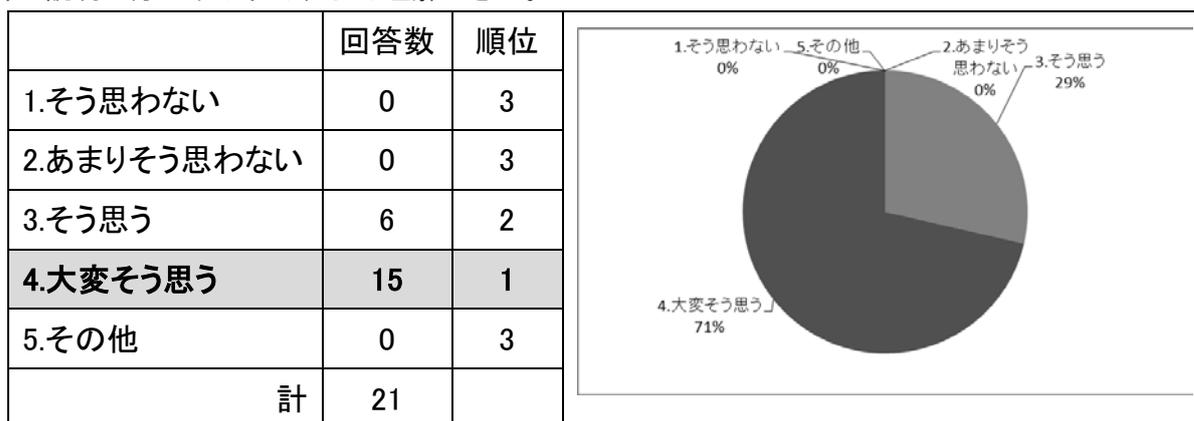
①講習の狙いや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。



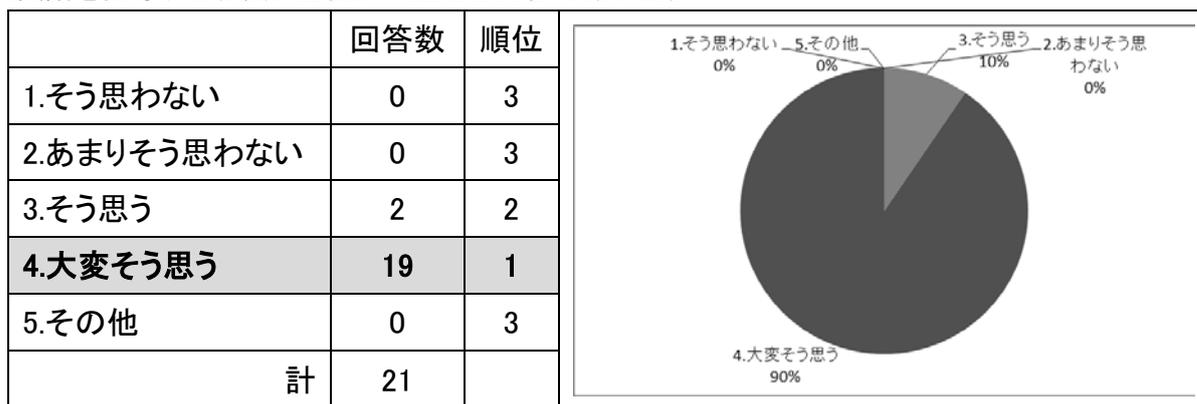
②講習は学習意欲がわく内容であった。



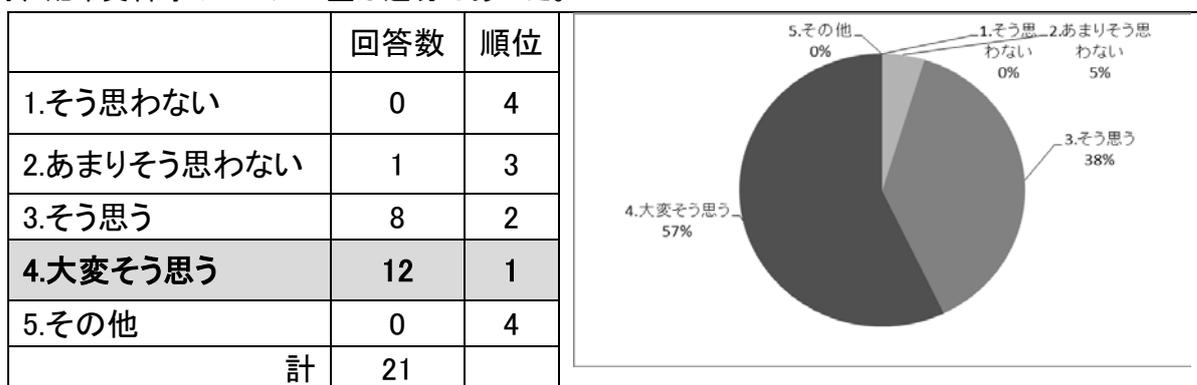
③講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。



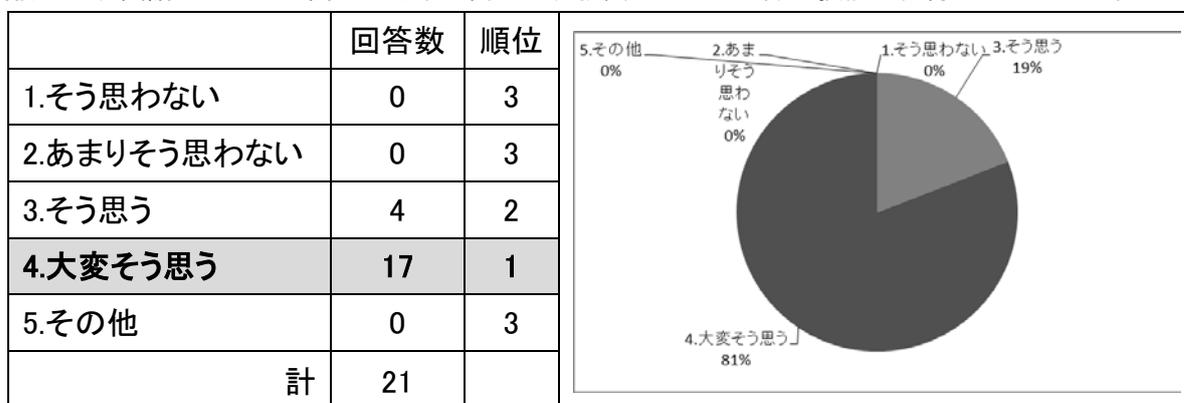
④今後英語を指導する教員に必要かつ適切な内容であった。



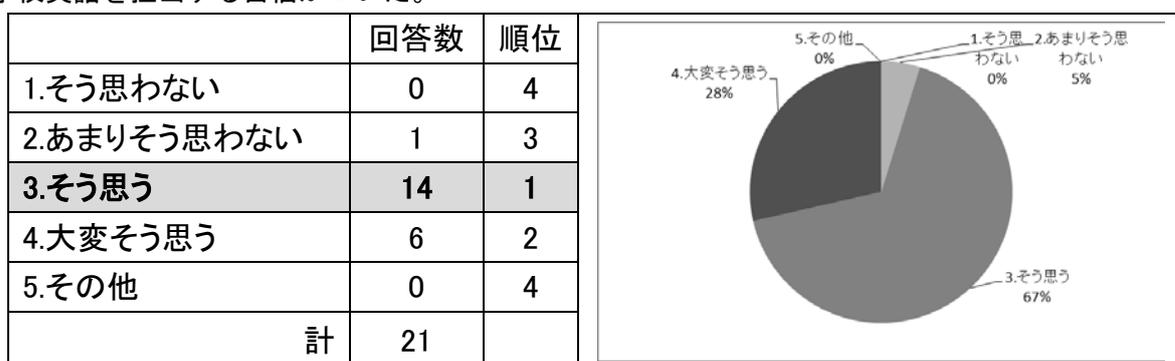
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。



⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。



⑦小学校英語を担当する自信がついた。



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業内容・運営について】

○参考になった。

- －説明が分かりやすく理解できるところがたくさんあった。
- －具体的にどう活動すればよいかわかった。
- －実践をイメージしながら学ぶことができた。
- －移行期にぴったりの講座だった。
- －評価する難しさに少しずつ自信がもてた。
- －外国語の知識や授業の仕方について不安があったので、このような機会にいろいろなことを知ることができて大変よい講座であった。

○もう少し詳しく聞きたかった・難しかった。

- －評価の在り方をもう少し詳しく聞きたかった。
- －時間がない中ついていけない部分もあり、難しかった。しっかり学び直しをしたい。
- －内容が多く、深く考えたことのない内容も多かったので聞き逃し、見逃してしまった部分があったのが残念だった。基本の部分をもっと学習してから聞かせていただくとより理解できただろうと惜しい気持ちだ。
- －評価の演習をもう少し時間を作ってできればよかった。
- －欲を言えばパワーポイントのデータを紙の資料でもらえたらより分かりやすかった。
- －内容的に難しい部分が多いのではないか。範囲を狭くする等が必要かと思う。

○実践・校内研修に生かしたい。

- －早く授業で使いたい実践がたくさんあった（特に文字指導）。
- －ものすごく実践的で校内研ですぐにやってみて広めたい（文字指導について）。
- －学校でも少しずつ研修等で授業の練習など教職員全員でする機会をつくっていただけるといいと感じる内容があったので伝えていきたい。

【その他】

- －2人の先生が適宜休憩時間を取りながら講座を進めてもらい、長時間にわたる講座でしたが集中して話が聞けた。

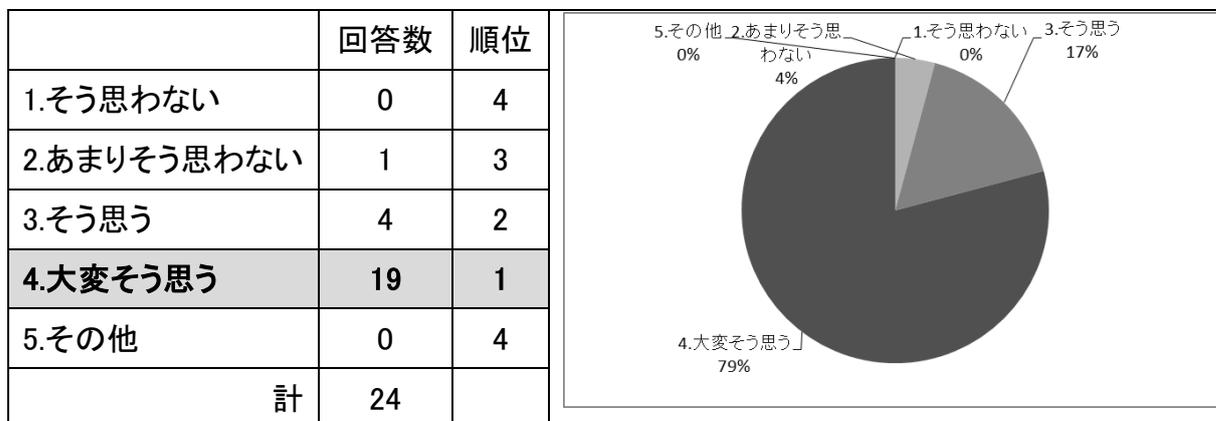
⑨今後スキルアップ講座で取り扱ってほしい内容や、時期等の希望があればお書きください。

- －How to 評価（より詳しく）
- －How to do an アクティビティ（模擬）など
- －ジングルや絵本と教科書を照らし合わせたような講座があればうれしい。
- －スモールトークの方法や絵本の学習方法等楽しめる学習指導の方法をこれからも取り扱ってほしい。
- －50時間、または70時間のカリキュラムの具体例
- －小規模校（1クラス10人以下）でも楽しくコミュニケーション力をつけられるゲーム
- －接続を意識した小・中・高全ての教員対象の講座もあるとよいと思う。
- －単元計画と指導案、1時間の組み立て方
- －移行期について疑問と不安がまだまだあるので話が聞きたい。
- －毎学期1回どこかの土日にこのような機会があるとよい。
- －この講座を定例にしてほしい。
- －習ったことをすぐ使いたいので、学期初めか夏休み・冬休みに開催してもらえるとうれしい。
- －早い時期に移行期の教材を使った演習や新教材を使った評価についてしていただければ嬉しい。

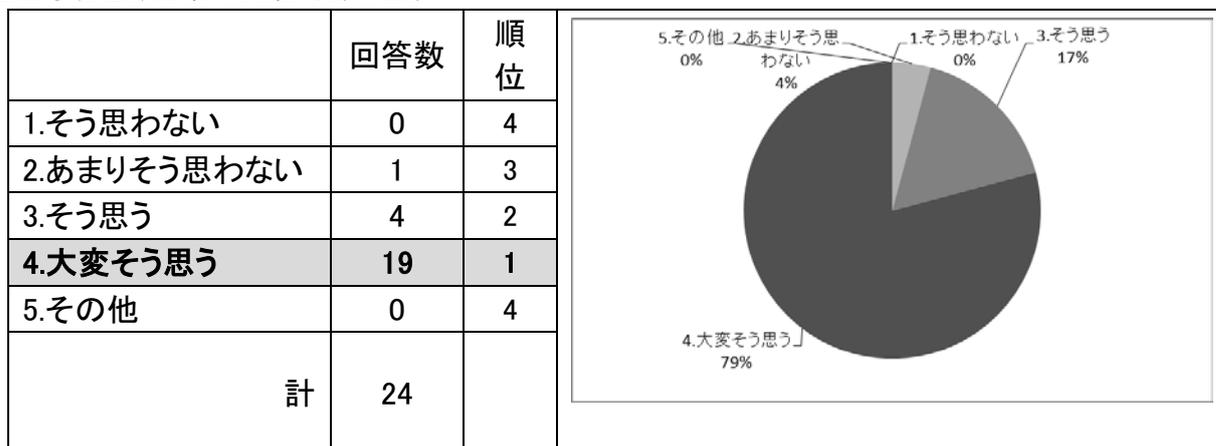
参考資料5 「小学校英語スキルアップ講座 Ab」受講者アンケート結果

小学校英語スキルアップ講座 Ab に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	28
	回答者数	24

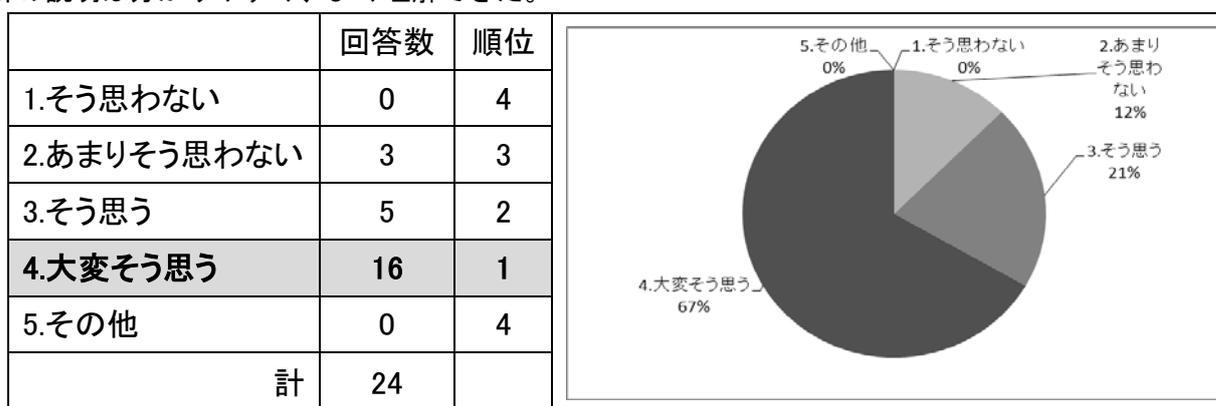
① 講習の狙いや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。



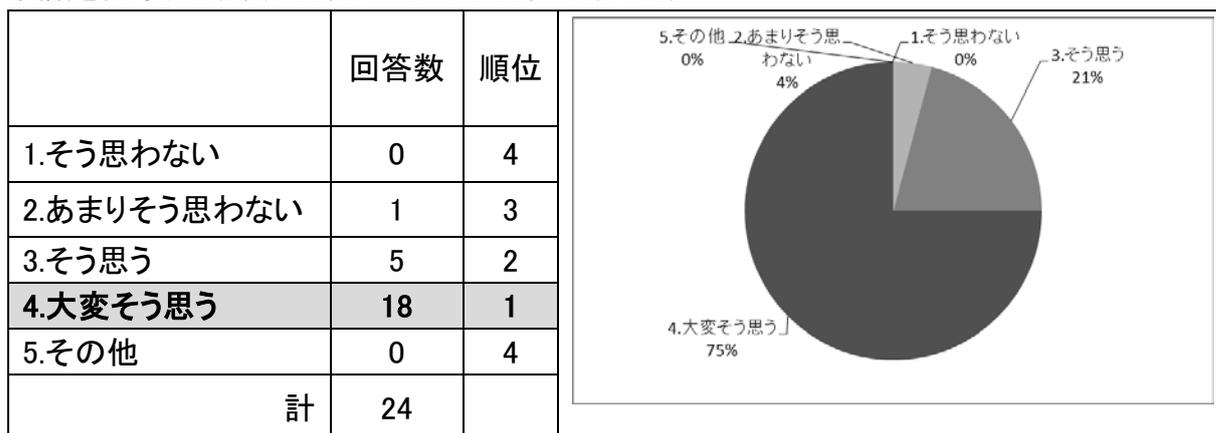
② 講習は学習意欲がわく内容であった。



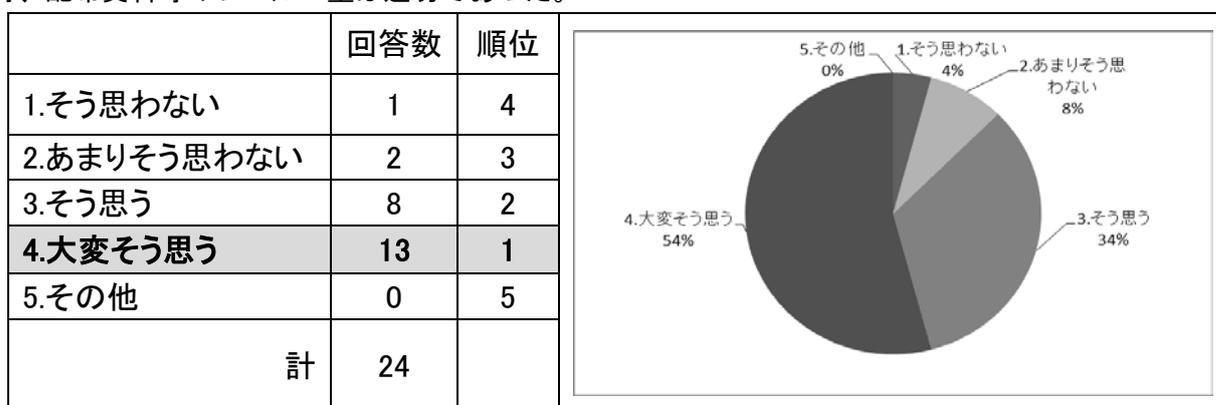
③ 講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。



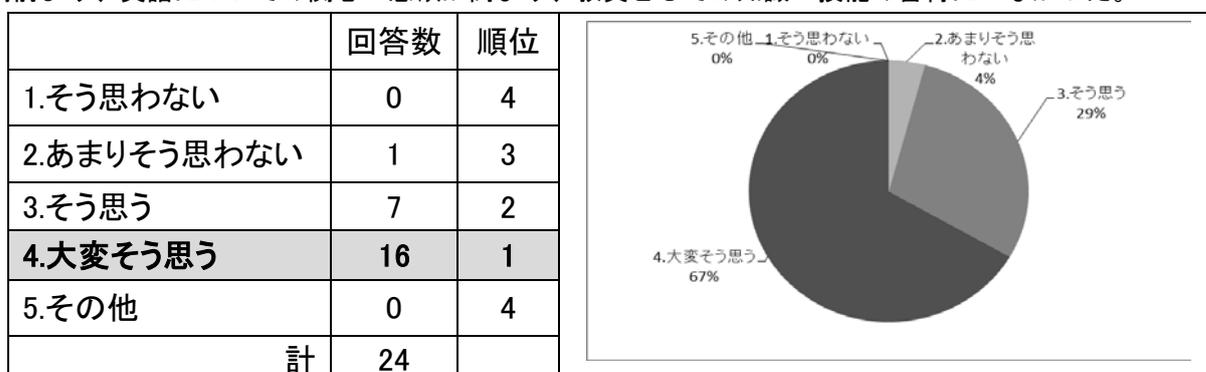
④今後英語を指導する教員に必要なかつ適切な内容であった。



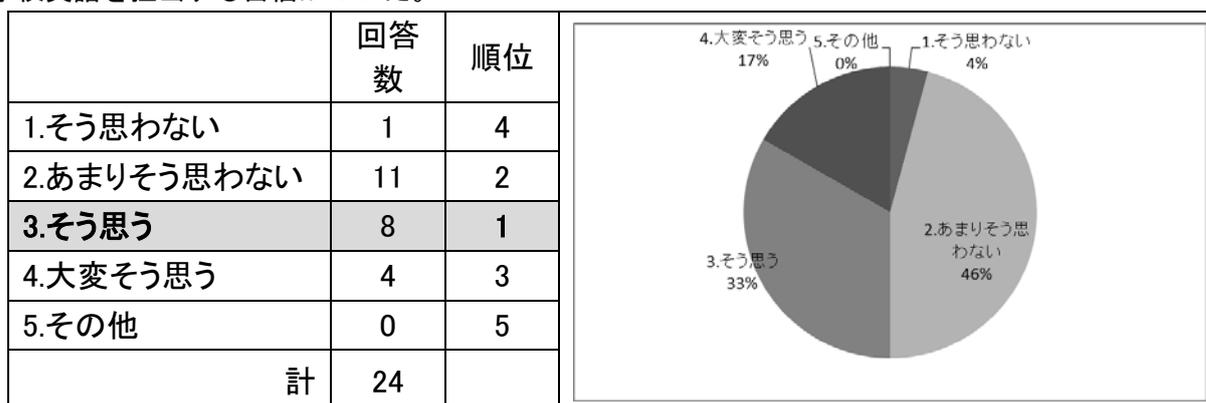
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。



⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。



⑦小学校英語を担当する自信がついた。



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業内容・運営について】

○よかった・分かりやすかった・勉強になった。

- －理論から実践を学べるのが良かった。
- －評価内容がわかったことがよかった。
- －体験・参加できるものが多くて実感を伴って理解しやすかった。
- －現場ですぐに使える授業例や活動例をたくさん教えていただき大変勉強になった。
- －新教材の内容に初めてふれることができた。
- －具体的な指導方法を教えていただきすぐに役立ちそう。
- －特に評価についての話が良かった（校内での研修ではあまり詳しくやらなかったのだ）。
- －多くの実践に裏付けられたお話であり、分かりやすかった。
- －教材を初めて見て、特徴やどのように外国語の学習が変わっていくのかを理解することができた。
- －評価を事前に計画しておくことで見通しをもって授業を進めることができる、それが子どもの力につながると改めて思った。

○難しかった・引き続き学びたい。

- －評価についてはこれからはしっかり勉強していく必要性を強く感じた。
- －資料がたくさんありすぎて、今日だけでは十分に理解するのが難しいので時間をかけて準備をしていきたい。
- －内容が難しすぎてついていけなかった。少し場違いなところに来てしまったかと感じてしまうとともに自分の力のなさががっかりきた。もう少しレベルを落としていただけると助かる。難しい言葉が飛び交い困った。資料を持って帰りしっかりと勉強したい。

○実践・校内研修に生かしたい。

- －校内研で使わせていただきたい内容ばかりでした。
- －校内での教員による認識の温度差があり、伝達の大切さをひしひしと感じる。最後に泉先生がおっしゃっていたように、どのような子どもを育てたいのかを学校として明確にすることが大切であると痛感した。

【その他】

- －わかりやすいお話とアクティビティがあり、理解につながっているものの情報量の多さに若干パニック気味であるように感じた。
- －限られた時間の中でたくさんの内容を教えていただきわかりにくいところもあった。本来なら一つ一つのお話をもっとゆっくりと聞ける機会が欲しい。
- －両先生がとても熱心に教えてくださるので頑張ろうと思えた。
- －資料が小さく見にくかったので大きいものがあればもっと良い。
- －日曜日だったので参加しやすかった。

⑨今後スキルアップ講座で取り扱ってもらいたい内容や、時期等の希望があればお書きください。

- －アクティビティや指導方法 －小学校教諭が知っておきたい Teacher Talk と勉強方法
- －理論より実践ということで、チームで展開例（略案）を考える等。
- －教科としての英語の指導法、評価の仕方をもっと勉強したい。
- －一度にたくさんの内容を扱ったので少しずつ丁寧に定期的に研修できればといいなと思う。
- －Activity をたくさんとりいれていただけると嬉しい。
- －教材研究の方法（学年でどう相談して進めていくか実際にやったことがないので教えていただき

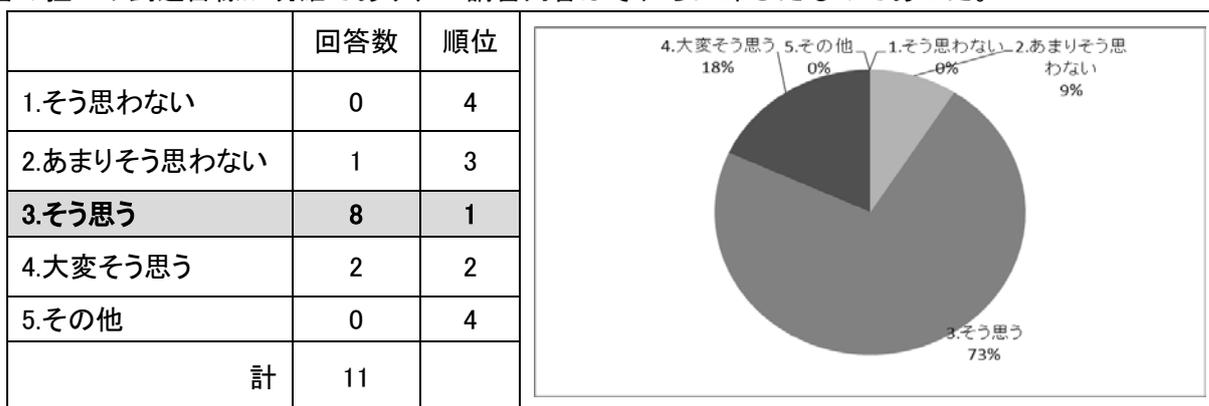
たい)

- 今後の方向も加えて評価についてさらに勉強したい。 - 具体的な評価方法
- 小中接続の Can-do リストが職場でも課題になっているので、ぜひ勉強会を開いてください。
- 教員研修の方法等も取り扱っていただけると嬉しい。
- 定期的に開催してほしい - 細かく開催してもらえると嬉しい。
- 絵本の読み聞かせ実践、フォニックス指導、1時間の流れ等すぐに実践に使えること。

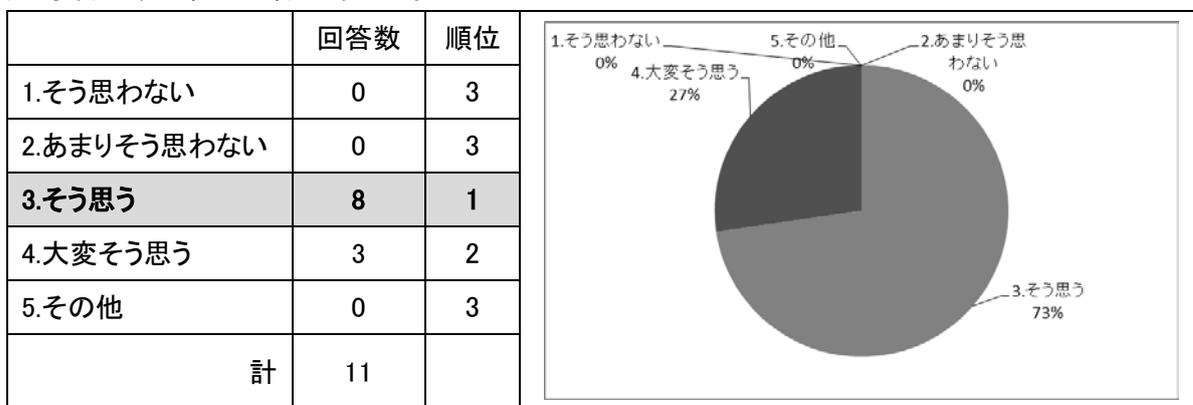
参考資料6 「小学校英語スキルアップ講座 Ba」受講者アンケート結果

小学校英語スキルアップ講座 Ba に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	11
	回答者数	11

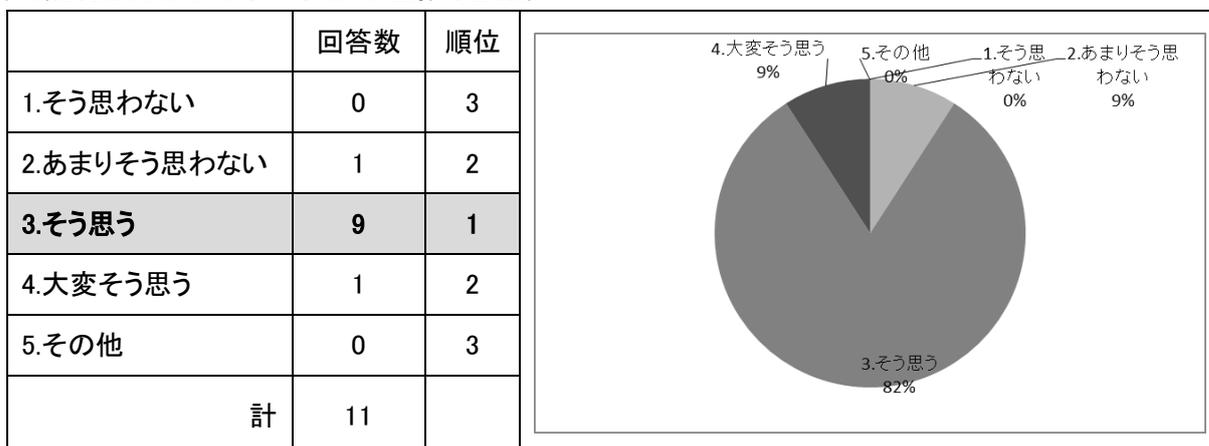
①講習の狙いや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。



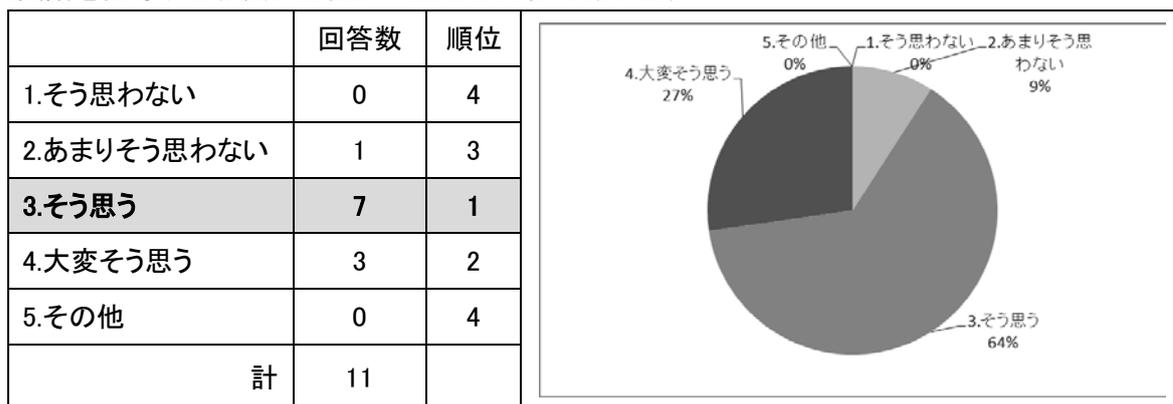
②講習は学習意欲がわく内容であった。



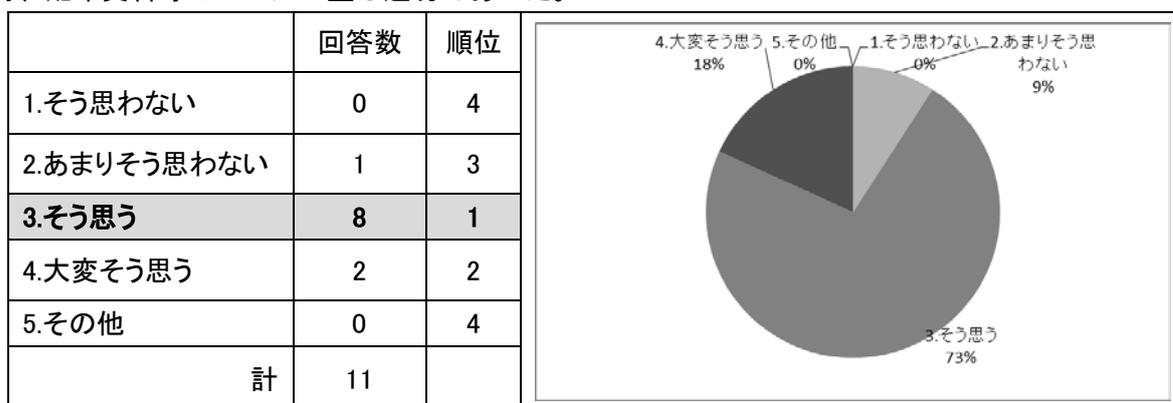
③講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。



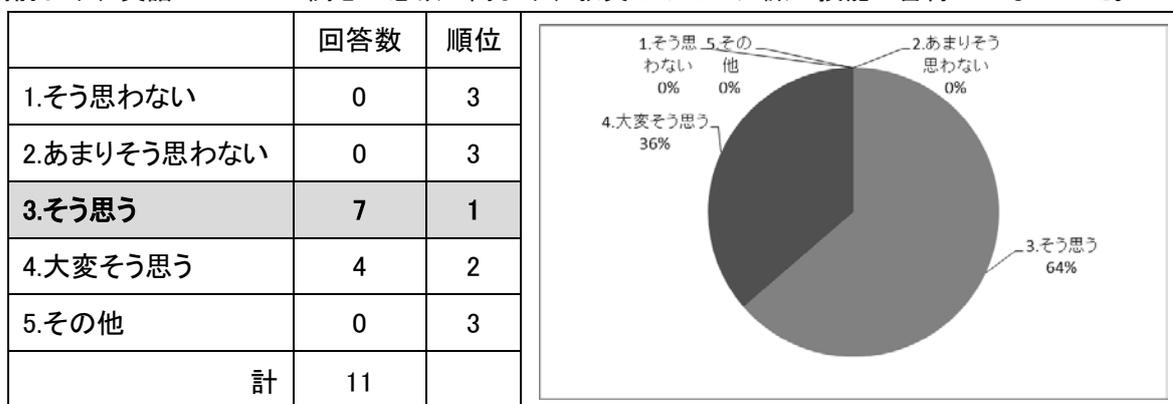
④今後英語を指導する教員に必要なかつ適切な内容であった。



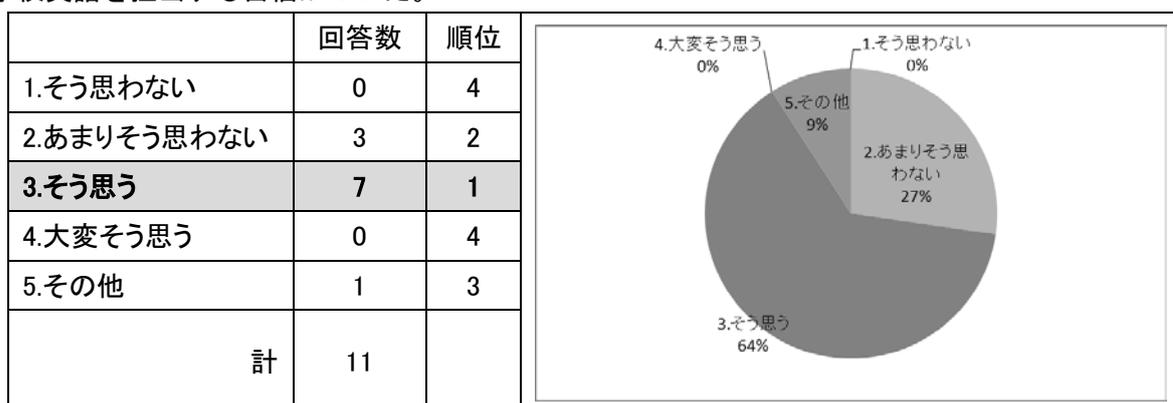
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。



⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。



⑦小学校英語を担当する自信がついた。



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業日程について】

－北部地域の開催ということで大変ありがたかった。お盆前ということでせっかくの講座に参加者が少なく惜しい。

【授業内容・運営について】

○分かりやすかった・理解が深まった。

- －分かりやすく丁寧に教えてもらってよかった。こういう講座が増えるとよいと思う。
- －スキルアップにつなげたいと思われる先生へ分かりやすく、かつ向上する為の講座だった。中学年から高学年へと移る際に必要な点もよくわかった。
- －午後はビデオ視聴で先生のお話の内容の理解が深まった。ワークショップする知識が不十分であったがカテゴリー化のイメージがついた。
- －理論中心でしたが、これまで考えることのなかった「カテゴリー学習」等、新鮮で興味深い内容だった。小中の接続を意識することにつながり今後生かしていきたいと思う。
- －次年度から *Hi, friends!* は使わないと思うが、もう一度内容を考え直す機会になった。今後どのようなどころに焦点を絞って学習を進めていけばよいのか明確になった。
- －子どもたちの言語習得の段階が分かって良かった。段階を踏んで指導していきたい。
- －日本語を使いつつ、部分的に英語も使っていく外国語活動を担任が進めていくためにどのようなことを理論的に知っておけばよいのか理論をもとに教えてもらい有意義だった。
- －中学校の実践 DVD は小学校でも参考にしたい点が多く、学びが多かった。
- －カテゴリー学習にすることで、子どもたちの世界観が高められるように感じた。

○さらに学びたい。

- －午前は英語にふれる機会となり刺激となった。もっとヒアリング、スピーキング力を鍛えたい。
- －理論が大切なのはとてもよく分かります。理論を知った上で実践でどう生かすかを色々な視点で学び、交流できたらさらによかったと思う。

○難しかった。

- －理論は一部分かったものの、それをどのように現場につなげていくのが難しいと思った。
- －小学校教員には難しい専門用語も多いため、理解に時間がかかるので、ゆっくり進めてもらうとよいのではないかと。そう考えると 1 日にたくさんの内容をするよりも少しの内容を深く考えていく方がスキルアップにつながるように思う。（北部に来ていただけるだけでありがたいのですが）

【その他】

－この講座の受講内容のレベルが分からない。来年度からの移行期間のことを考えて不安に思っている先生はたくさんいますが、スキルアップなため初級者についてはいけないのではないかと考えて来られなかった方もおられるのではないかと。無償でこのような講座を提供していただき勉強になった。

⑨今後スキルアップ講座で取り扱ってもらいたい内容や、時期等の希望があればお書きください。

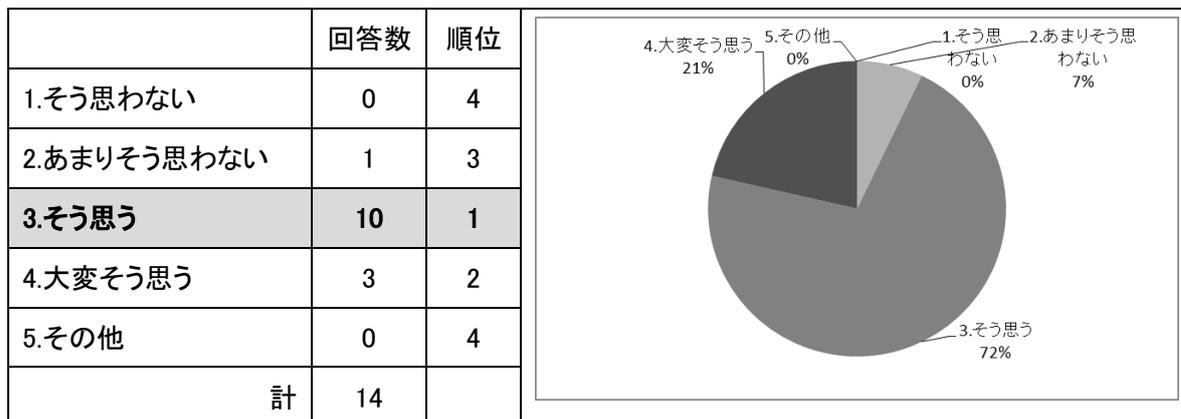
- －理論も大切だが差し迫ってきている現状では指導力向上や授業構成力向上など直接的に実践につながる講座があるとより嬉しい。
- －指導案の交流、具体的授業単元構成の交流、協議講義など（新指にそったもの）だと有難い。
- －外国語における授業を通して活用できるクラスルームイングリッシュ
- －Story telling の方法やフォニックスについて知りたい。
- －せっかくの北部開催ですが、人数が少なく残念だった。ただ、後半の 2 月開催の分は時期が年度

末なので、今の8月9月実施のほうがよいと思う。一時期は、今回のように長期休みの平日がよい。

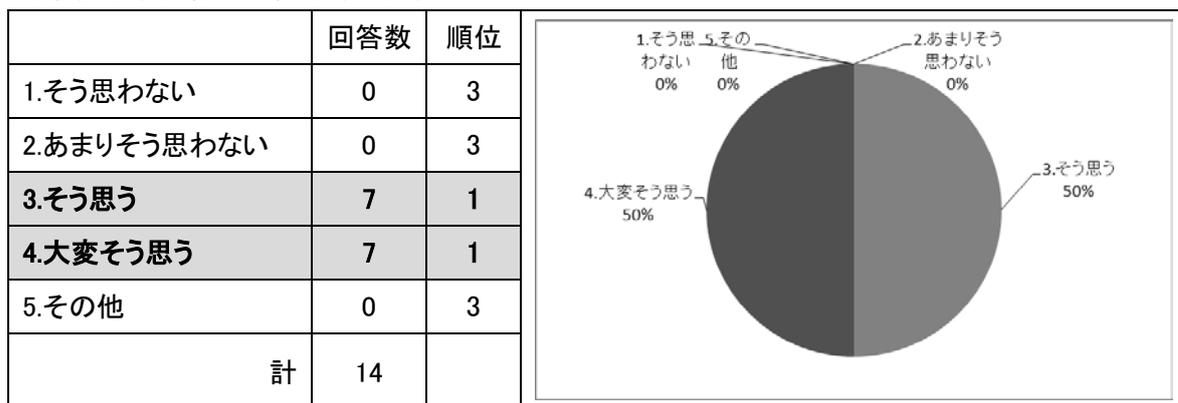
資料7 「小学校英語スキルアップ講座 Bb」受講者アンケート結果

小学校英語スキルアップ講座 Bb に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	16
	回答者数	14

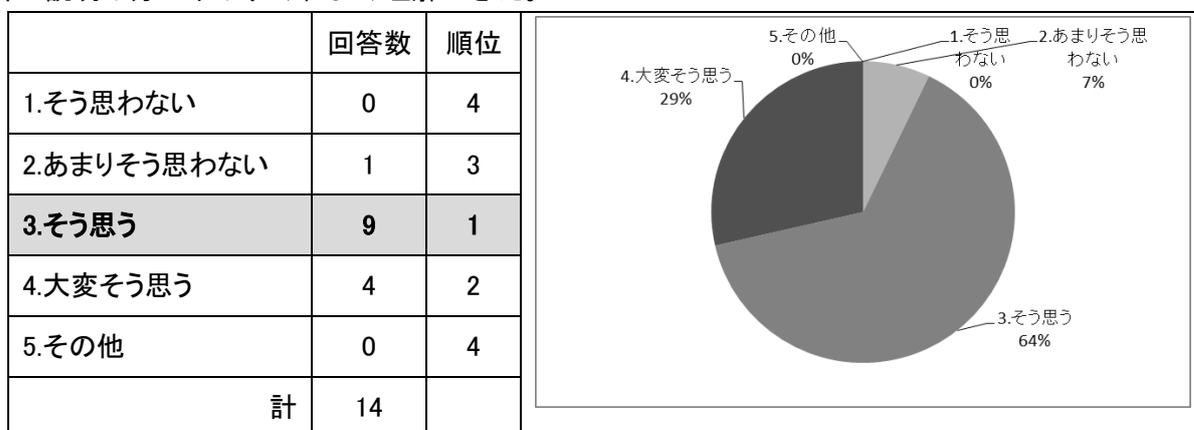
①講習の狙いや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。



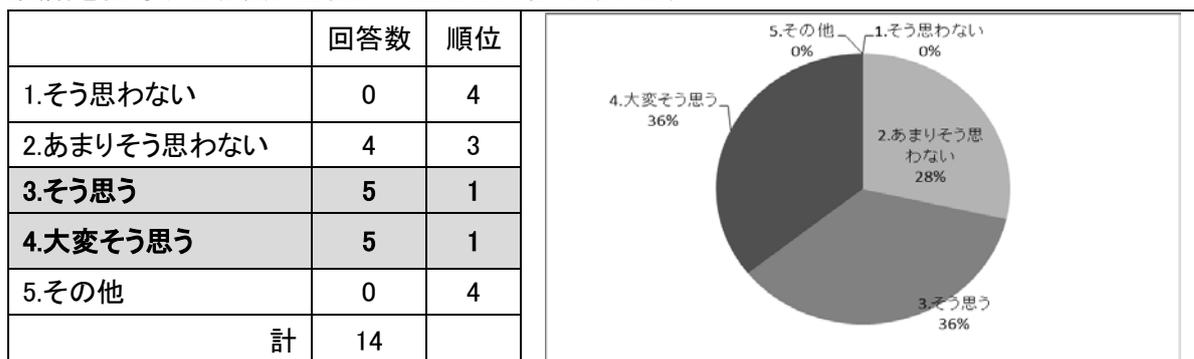
②講習は学習意欲がわく内容であった。



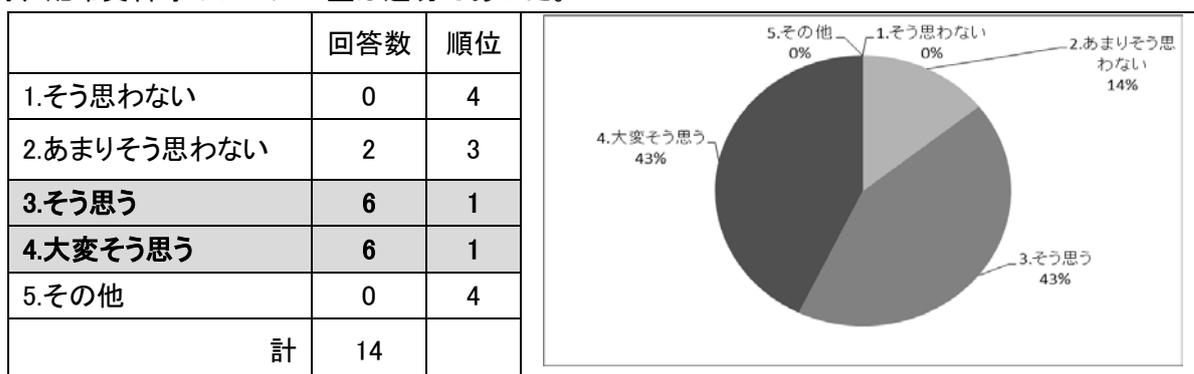
③講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。



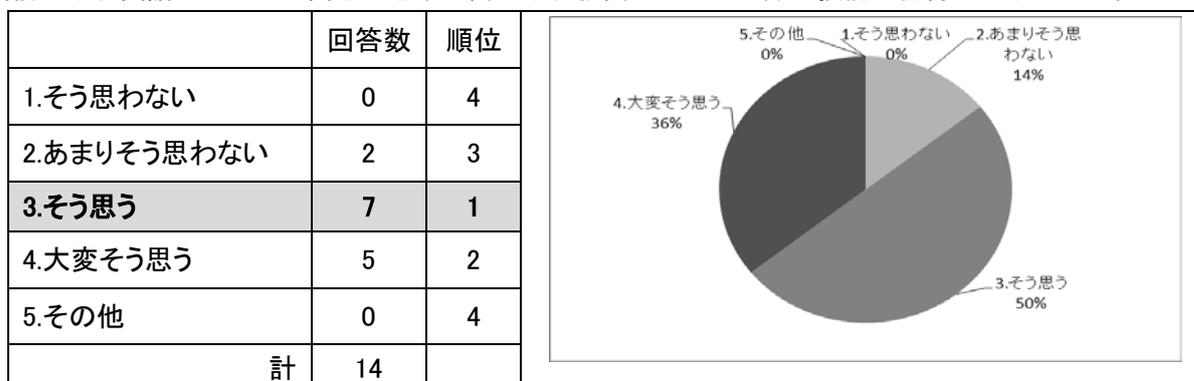
④今後英語を指導する教員に必要かつ適切な内容であった。



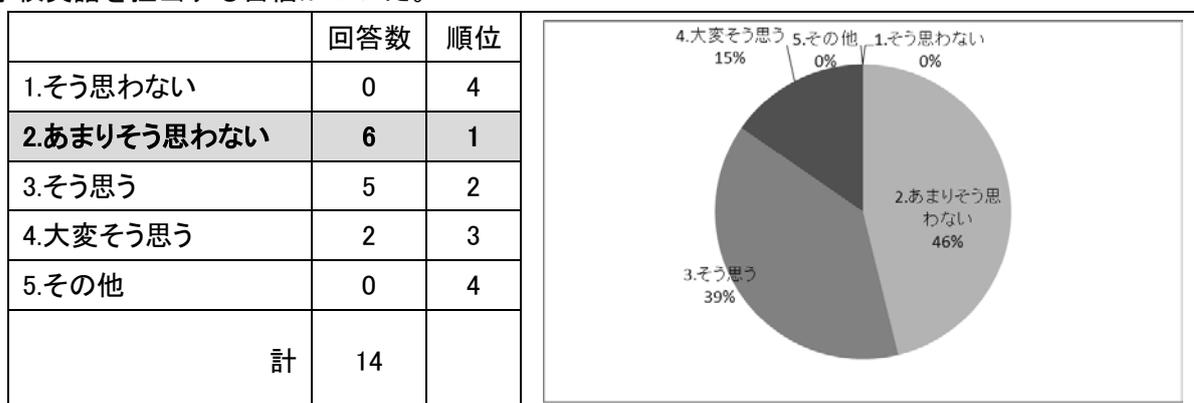
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。



⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。



⑦小学校英語を担当する自信がついた。



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業内容・運営について】

○勉強になった・よかった。

- －どんな力をつけたいかを指導者が明確にして授業を作っていく必要があると思った。
- －英語の理論についても詳しく教えていただき勉強になった。
- －指導者が指導する上での心構えや大切な視点を教えていただきとてもよかった。
- －理論から始まり、どう深まるのか少し不安でしたが、ビデオ視聴やワークショップを通して少しずつ理解できた。リアルな例文が興味深かった。
- －午前中は先週よりも内容が分かりやすくおもしろかった。
- －実践の時間を作っていただいたことはとても素晴らしい。
- －学ぶことの楽しさを改めて感じた。できることから少しずつ実践し、子どもたちに伝えていきたい。
- －実際の授業を想定して説明をしたり、ビデオを視聴させてもらったりしてよくわかった。
- －夏の福知山での講座にも参加していたので比較しての感想になりますが、小学校英語の内容に寄っていたのでわかりやすくなったなどという印象。*Hi, friends!* を午前中に使い、*We Can!./Let's Try!* を午後に触れたので、個人的にはつながりが見えた。

○難しかった・もう少し詳しく聞きたかった。

- －小学校で英語を教えるにあたって必要なことであったと思うが内容については難しかった。
- －*We Can!* にもふれてもらえると次年度以降につなげられたと思う。
- －午後の前半は難しすぎでついていけなかった。
- －活動内容が分かりにくかったので、例を見せていただく等具体的に示していただけるとさらに学びが深まる。

【その他】

- －事前に授業を英語か日本語か聞いてもらえてとてもありがたかった。今日の講義は自分のレベルに合うものだった。
- －各講座のめあてや何についての講座なのかを最初に教えてほしい（講義を受ける直前まで何についての講義かわからなかったのだ）。
- －外国語の教科化にはまだ大きな不安がある。「何をすればよいのか」「どうすればよいのか」は推進校でなければわからない部分が多いのも事実です。理論でなく実践の学びが多くありますようお願いしております。
- －午前と午後で講師の先生が代わられて、違った立場からのお考えが聞けて良かった。

⑨今後スキルアップ講座で取り扱ってもらいたい内容や、時期等の希望があればお書きください。

- －新教材の指導方法、評価の在り方
- －35人学級での実践的な指導方法等、授業ですぐ使える内容の研修を期待
- －評価についてどのように見取るのがよいか、所見の表現等、具体的に研修したい。
- －ピクチャーカードや洋書、単語カード等、実際のものを使って activity をやる時間があればよい。
- －教育格差をより広げてしまうものではなく、学ぶ機会を均等にするための外国語活動であってほしい。
- －定期的にしてもらえると嬉しい（月1回とか年4回はどうか）。－時期は特に問題ない。
- －夏休みの平日に北部でやっていただくと参加者も増えるかと。実践と理論の融合を目指したい。
- －7～8月は講師の人は試験なので9～3月くらいが参加しやすい。－夏休みが出やすい。

参考資料 8 「英語学 I」シラバス

科目名	英語学 I	
担当教員	児玉一宏	
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学（言語学）の基礎的な概念を理解することによって、英語学的な思考法の基礎を学ぶ。 2. 中等英語科教育で扱われる基礎英文法や英語構文についての一步進んだ理解を目指す。 3. ことばの不思議さ、ことばについて思索することの面白さ、英文法の有用性を教授することに努める。 	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学（言語学）の基礎的な概念を理解し、英語学的な英語の分析ができるようになる。 2. 統語論および意味論の事例研究を通して、生成文法や構文理論等、理論言語学の基本的な考え方を理解できるようになる。 	
授業計画	回	内容
	1	オリエンテーション
	2	英語研究への言語学のアプローチ
	3	基礎英文法（1）：英文法の有用性
	4	基礎英文法（2）：教育文法の視点
	5	英語学研究に基づく基礎英文法の理解
	6	英語学研究に基づく基礎英文法の活用
	7	統語論（1）：句構造の考え方
	8	統語論（2）：事例研究〔移動現象など〕
	9	コミュニケーションに役立つ英文法（1）：シノニム語法と英語の構文
	10	コミュニケーションに役立つ英文法（2）：談話文法
	11	英語構文研究（1） 事例研究〔否定〕
	12	英語構文研究（2） 事例研究〔比較〕
	13	意味論（1）：動詞の意味と構文の相関
	14	意味論（2）：言語の使用場面と構文選択
	15	授業のまとめ
	試験	
テキスト・参考書	<p>〔テキスト〕 使用しない。講義資料を配布する。</p> <p>〔参考書〕 授業中に適宜紹介する。</p>	
自学自習についての情報	講義資料と授業時のノートを中心に講義内容の定着を徹底していただきたい。次回の予習事項については、授業の最後に伝える。	
授業の形式	講義と演習	
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	(1) 期末試験の成績（70%） (2) 課題レポート・確認テスト等の成績（30%）	

参考資料9 「コミュニケーション英語Ⅱ」シラバス

科目名	英語コミュニケーションⅡ	
担当教員	Andrew Obermeier	
授業の概要	<p>教員の英語力を向上させる為に実際の教材を用いて教室英語などのブラッシュアップを行う。また、英語の4技能を関連して指導するあり方を考える。さらに、近年ヨーロッパで広まっているCLIL(Content and Language Integrated Learning: クリル)という英語教育法の体験を踏まえて、学校現場で理科や社会などの教科学習と英語の語学学習を統合したアプローチを紹介する。</p>	
授業の到達目標	<p>(1)日本語の教科書を読んだ上で英語の講義と授業活動を行うことによって、CLIL の教授法を体験する。</p> <p>(2)人間関係における「コミュニケーション」について深く考える。</p> <p>(3)楽しく、面白く意義ある英語学習法の原則を体験し、自分で英語学習する意欲を高める。</p> <p>(4)良い授業作りの模範を示す。</p>	
授業計画	回	内容
	1	英語の4技能を関連するあり方； CLIL のあり方
	2	人間関係におけるリーダーシップの原則
	3	まず理解に徹し、そして理解される
	4	共感によるコミュニケーションの原則
	5	人格とコミュニケーション
	6	シナジーを創り出すコミュニケーション
	7	第3の案を探す
	8	まとめ
		試験
テキスト・参考書	<p>ステイーブン・R. コヴィー (2016)、「完訳 7 つの習慣—人格主義の回復」。キングベアー出版。 ISBN: 978-4863940611</p>	
自学自習についての情報	<p>授業が始まるまでに教科書第3部(公的成功)を読んで来て下さい。</p>	

参考資料 10 「中等生徒指導、教育相談、進路指導」 シラバス

科目名	中等生徒指導、教育相談、進路指導	
担当教員	本間友巳・藤岡秀樹・内田利広・西村佐彩子	
授業の概要	今日の生徒指導・教育相談・進路指導をめぐる問題は、その多彩さと深刻さを増してきている。生徒指導・教育相談及び進路指導の意義とその理論・方法について概観する。そして、中学校段階を中心として生じやすい問題や課題についての基本的な理解及びその支援の在り方について学ぶ。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導・教育相談および進路指導の意義とその理論・方法を理解する。 2. 中学校・高等学校段階の生徒が学校・家庭・社会の中で遭遇する可能性のある課題について、生徒の状況を適切に把握しながら支援方法を考えることができる。 	
授業計画	回	内容
	1	生徒指導の基礎(第1章)【担当、本間】
	2	生徒指導に関する法制度(第1章)【担当、本間】
	3	生徒指導に関わる個別の課題とその支援1(第Ⅱ部)【担当、本間】
	4	生徒指導に関わる個別の課題とその支援2(第Ⅱ部)【担当、本間】
	5	職業指導, 進路指導からキャリア教育への転換(第7章)【担当、藤岡】
	6	キャリア教育の方法と留意点(第7章)【担当、藤岡】
	7	入試制度と進路, 障害のある生徒の進路保障(第7章)【担当、藤岡】
	8	開発的教育相談としてのキャリアカウンセリング(第7章)【担当、藤岡】
	9	教育相談の基礎(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)(第2章)【担当、内田】
	10	家庭・地域との連携 アウトリーチ(第4章)【担当、内田】
	11	家庭・地域との連携 家庭訪問と保護者対応(第4章)【担当、内田】
	12	児童虐待と学校での支援(第12章)【担当、内田】
	13	児童生徒の心理と発達(第5章)【担当、西村】
	14	児童生徒理解の方法 その1(第6章)【担当、西村】
	15	児童生徒理解の方法 その2(第6章)【担当、西村】
	試験	
テキスト・参考書	初めて学ぶ生徒指導・教育相談(金子書房)	
自学自習についての情報	事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点等各自課題意識をもって授業に臨むこと。	
授業の形式	講義を中心とするが、必要に応じ、グループ・ディスカッションやペアによる演習などを行う。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	最終の試験によって、行う。なお、毎回出席することを、原則とする。 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	「授業計画」欄の各回の括弧書きの「部・章」は使用テキストの該当ページである。	

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、京都教育大学が実施した平成29年度「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

